

議案第5号

伊勢市地域公共交通計画について

1. 計画素案について

(資料1) のとおり、計画の素案を作成しました。本計画では、内容を「本計画」と「資料編」とに分け、前段に計画の本旨が記載されるように構成しています。

本日の会議では、計画の核となる「本計画」の部分についてご議論いただきます。

2. 成果指標 (KPI) について

前回会議 (第5回会議) でいただいたご意見をもとに、ハード施策とソフト施策に分類して整理し、4つの基本方針にまとめました。(資料2)

成果指標 (KPI) の考え方については、(資料3) でご説明します。

3. 将来像と基本理念について

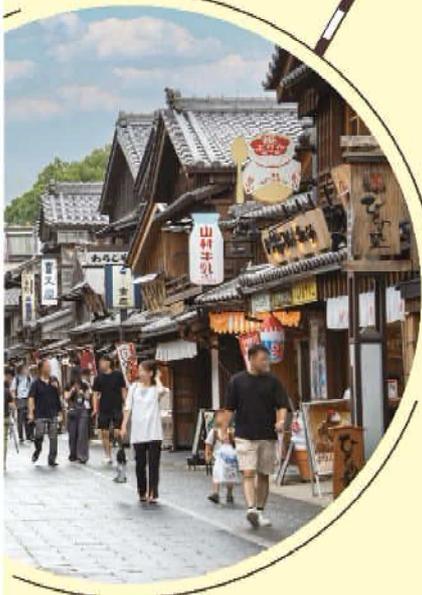
伊勢市が目指す地域公共交通の将来像が誰にでもイメージができるよう、基本方針1～4のテーマを踏まえ、本計画の新たな「将来像」「基本理念」を設定します。

【将来像】案

- ① 行きたい時に、行きたい場所へ、お出かけも観光も楽しめる持続可能な地域公共交通
- ② 行きたい時に、行きたい場所へ、暮らしと観光がにぎわう地域公共交通
- ③ 行きたい時に、行きたい場所へ、●●●●地域公共交通

【基本理念】案

- ① 私たちで「創り」「活かし」「めぐり」「育てる」
交流と活力に満ちた地域公共交通網の構築
- ② 私たちで「創り」「活かし」「めぐり」「育てる」
地域で支え未来へ残す地域公共交通網の構築
- ③ 私たちで「創り」「活かし」「めぐり」「育てる」
●●●●地域公共交通網の構築



伊勢市地域公共交通計画

令和〇年〇月 伊勢市



目次

1	はじめに.....	1
1-1	計画策定の背景.....	1
1-2	計画期間と計画区域.....	2
1-3	計画の位置づけ.....	3
2	伊勢市の現状.....	1
2-1	地域特性.....	1
2-2	公共交通特性.....	2
2-3	観光特性.....	4
2-3	公共交通利用実態.....	5
2-4	コミュニティバスの収支状況.....	6
3	(改訂)伊勢市地域公共交通網形成計画(R2年3月策定)の目標達成状況.....	7
4	公共交通の目指す姿.....	14
4-1	公共交通の課題.....	14
4-2	公共交通の目指す姿.....	14
4-2-1	まちづくりの主要課題.....	14
4-2-2	将来像と基本理念.....	15
4-2-3	基本方針.....	16
5	計画目標と目標指標(KPI).....	1
5-1	計画目標.....	1
5-2	目標指標(KPI).....	2
6	実施事業と実施スケジュール.....	1
7	目標達成状況の評価.....	1
8	計画推進に向けた取組.....	1
8-1	機動的・横断的な実行体制.....	1
8-2	モビリティ・データの活用.....	2

1 はじめに

1-1 計画策定の背景

伊勢市では、H19年4月からコミュニティバス「おかげバス」の運行を開始し、H26年5月からは、上野地区での自家用有償旅客運送による「沼木バス」の運行を開始するなど、住民の交通手段の確保に努めてきました。

また、少子高齢化が進むなかで高齢者や子どもを含めた自家用自動車等の移動手段を持たない人の移動手段を確保し、地域における公共交通に対する主体的な取り組み及び創意工夫を総合的、一体的かつ効率的に推進するため、R2年3月に「伊勢市地域公共交通網形成計画」を策定しました。本計画では「日常生活で利用できる公共交通を目指す」「公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す」「地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える」という3つの基本方針のもと、様々な取組を行ってきました。

しかし、R2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動需要の減少は、本市にも大きな影響を与え、公共交通利用者数は、R2年以前の水準に戻っていません。加えて2024年問題に伴う乗務員不足の問題は本市においても発生しており、燃料費高騰によって運行経費が高くなるなど、地域公共交通は厳しい状況にあります。

一方、国においては、R2年に「地域公共交通活性化再生法」が改正され、地域公共交通網形成計画を「地域公共交通計画」と改め、地方公共団体の作成を努力義務としました。また、収支や行政負担額などの定量的な目標の設定と毎年度の評価が必要となりました。

このような背景のもと、本市においても新たな法改正に即した計画に改訂する必要があるとともに、新型コロナウイルス感染症による影響や少子高齢社会の進行、乗務員不足や燃料費高騰の中にあっても将来のまちづくりを見据え、あらゆる関係者と連携しながら交通に係わる環境負荷の低減や、日常の楽しいおでかけと円滑な移動、観光振興等を実現する公共交通ネットワークを維持するため、本計画を策定します。

本計画のもと、地域住民、交通事業者、行政が一体となり、まちづくりや地域住民の生活を支える身近で使いやすい地域公共交通として、より一層の取り組みを推進し、将来にわたって確保、維持していきます。

※2024年問題

2024年4月から働き方改革関連法施行により時間外労働の上限規制等が適用され、トラックドライバーやバス乗務員の不足が発生していること。

1-2 計画期間と計画区域

本計画は R8 年度からの 5 年間で計画期間とし、本市全域を対象とします。ただし、隣接する市町に乗り入れているバス路線等については、乗入れ先も考慮した検討を行います。

計画期間

R8 年度～R12 年度(5 年間)

計画区域

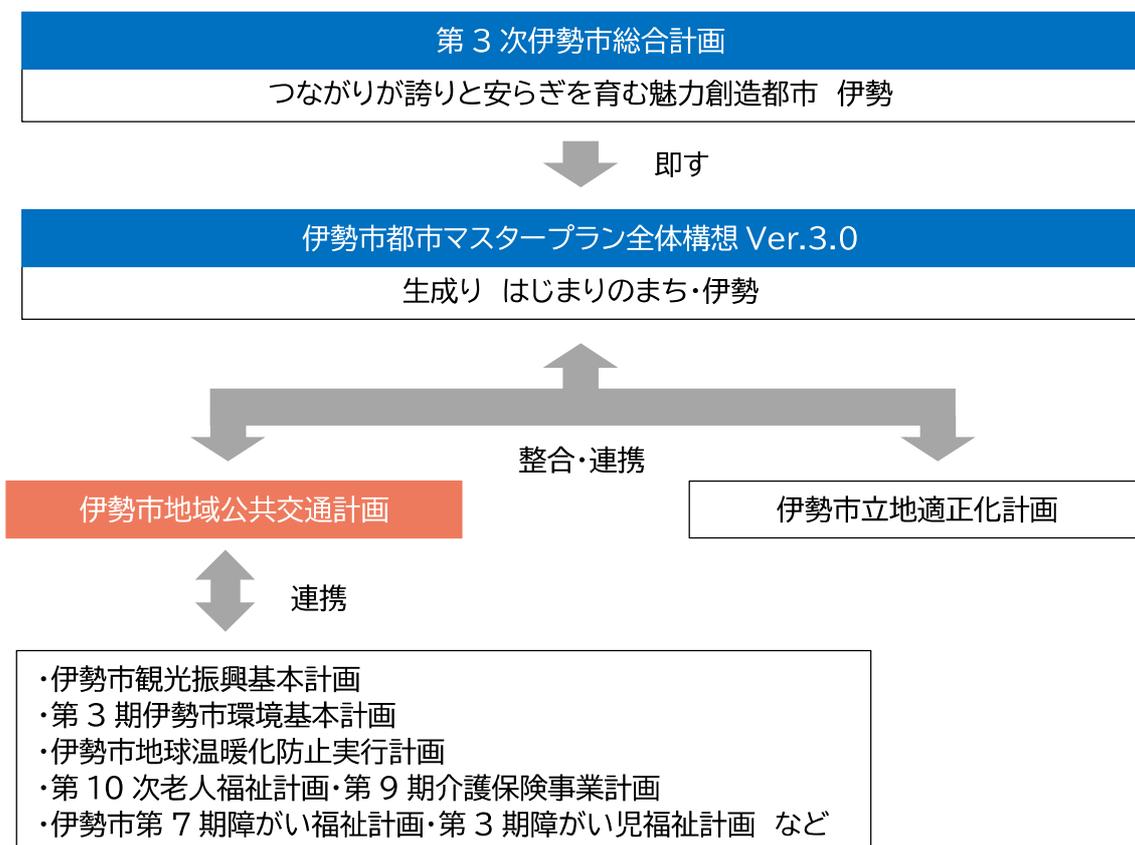
伊勢市内



1-3 計画の位置づけ

本計画は、交通政策基本法の理念を受けて、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正に基づき、まちづくりの方針である第3次伊勢市総合計画、伊勢市都市マスタープラン、伊勢市立地適正計画などの上位関連計画を踏まえて策定します。

本計画の位置づけ



2 伊勢市の現状

2-1 地域特性

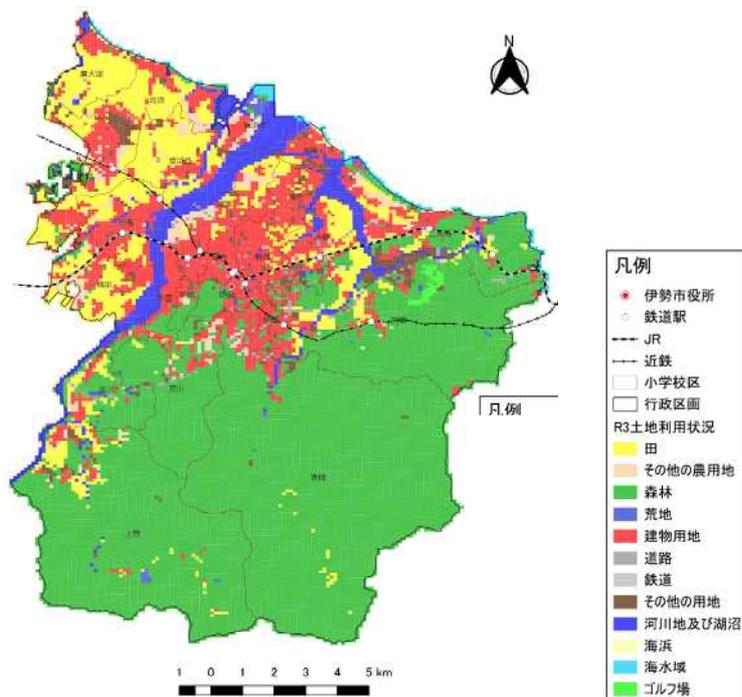
本市の総人口は年々少子高齢化傾向にあり、伊勢市人口ビジョンによると、H2年からR32年の60年間で総人口は約40%減少すると予測されています。R12年以降は65歳以上の人口が減少しますが、総人口の減少率の方が高いため、高齢化率は増加し続け、R32年には41%に達すると予測されています。

また、伊勢市の地域特性として、市域面積の約60%を森林が占め、市街地は市の北部に広がっています。宮川より西側を中心に田が広がり、宮川と五十鈴川に囲まれた範囲に建物用地が広がっています。

人口・高齢化率の推移と土地利用状況



資料:国勢調査(H2~R2)、伊勢市人口ビジョン(R12~R32)



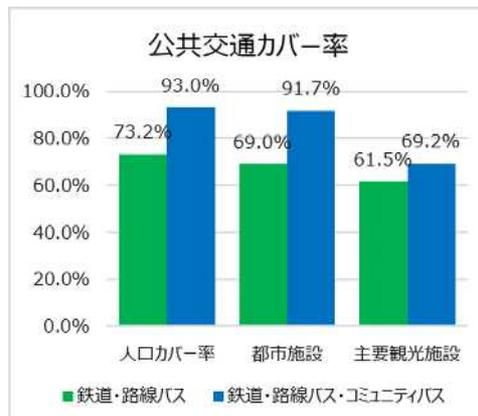
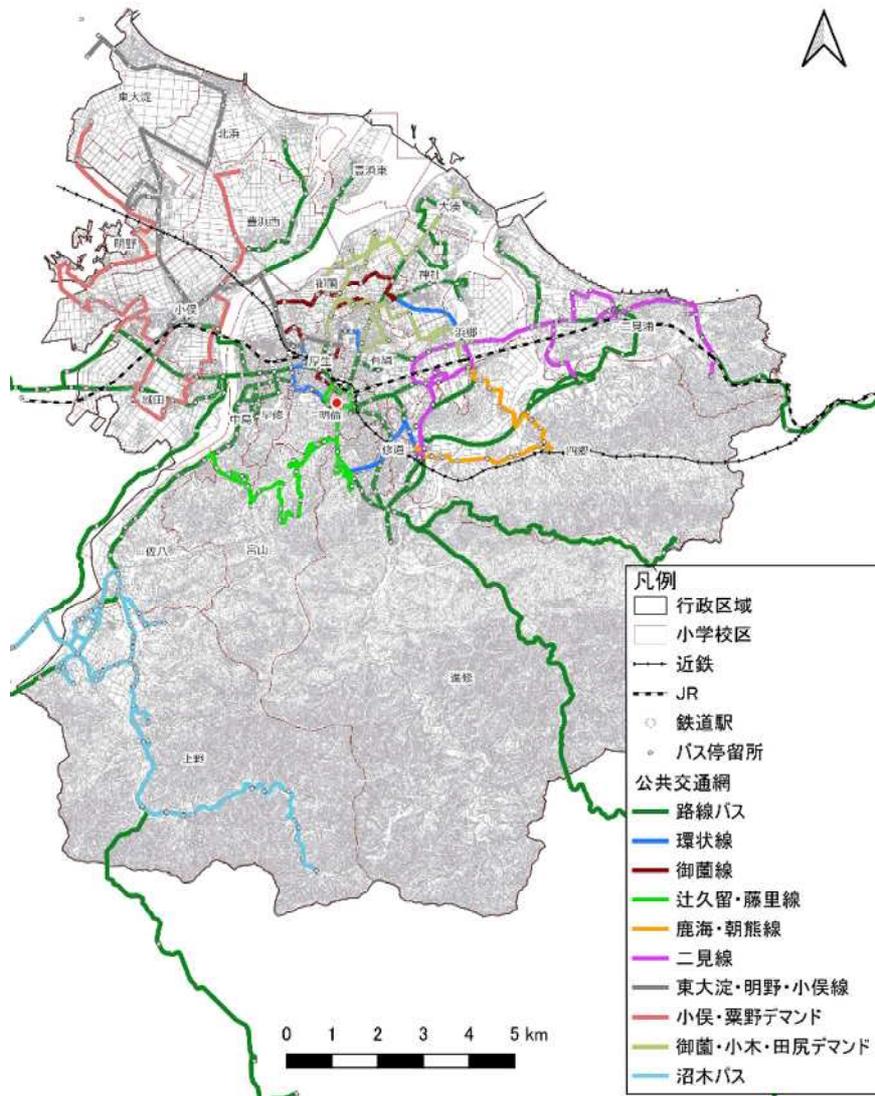
資料:国土数値情報(R3)

2-2 公共交通特性

本市には JR、近鉄、路線バスと、伊勢市のコミュニティバスであるおかげバス、おかげバスデマンド、沼木バスデマンド、自家用有償旅客運送である沼木バスが運行しています。

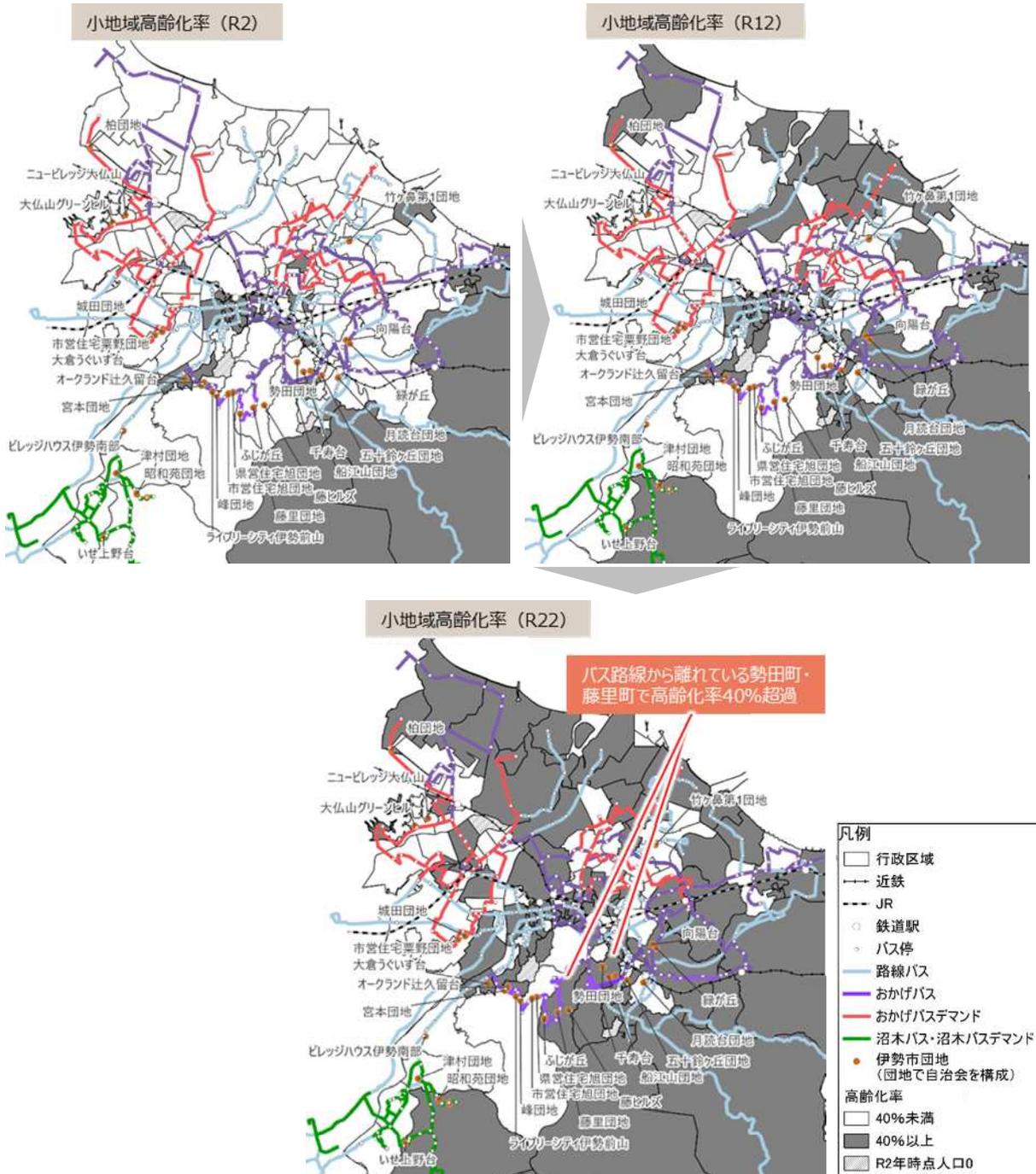
公共交通のカバー圏域(鉄道駅・バス停から 300m圏内)は、鉄道や路線バスでカバーできていない圏域を中心にコミュニティバス路線網が構築され、それによって多くの地域をカバーしています。

公共交通網図



本市の小地域別の高齢化率は、R2年時点で高齢化率40%以上の地域が41地域(全167地域の25%)であるのに対し、R22年には98地域(全167地域の59%)となる見込みです。

本市の主な団地(単独で自治会を構成する団地)の立地状況と、小地域の高齢化率、現状のバス路線を重ねてみると、主な団地は比較的バス路線沿線に立地していますが、勢田団地・船江山団地・自由ヶ丘団地(勢田町)や藤ヒルズ(藤里町)五十鈴ヶ丘団地(中之町)、ニュービレッジ大仏山(小俣町新村)はバス路線から離れており、高齢化が進んだ際の対応を継続して検討していく必要があります。



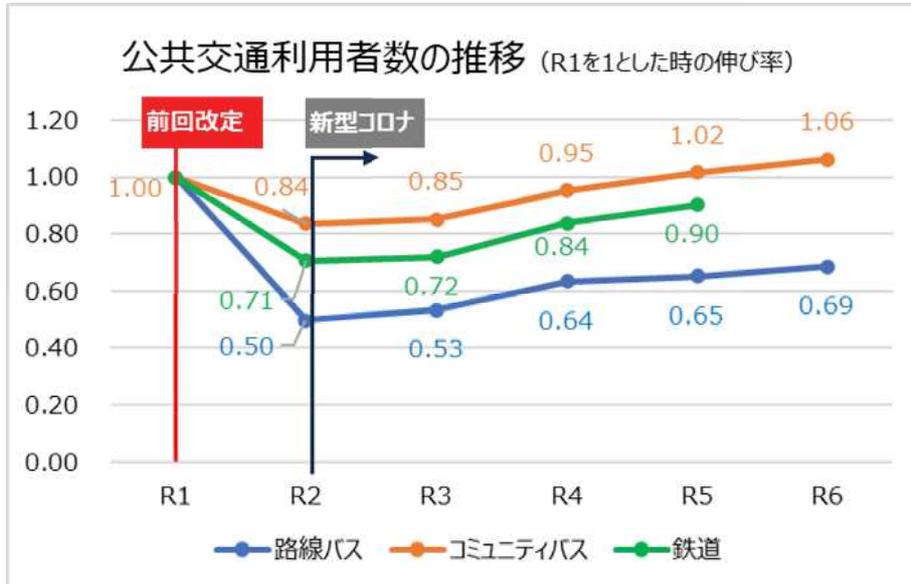
(補足)

団地は同年代の世帯が多く、定年や高齢化、子どもの進学等による独立などの時期が同時期になる可能性が高いと言えます。そのため、あらかじめ各地域の高齢化の進捗を把握しておくことで、次に施策を重点的に実施する地域がみえてきます。

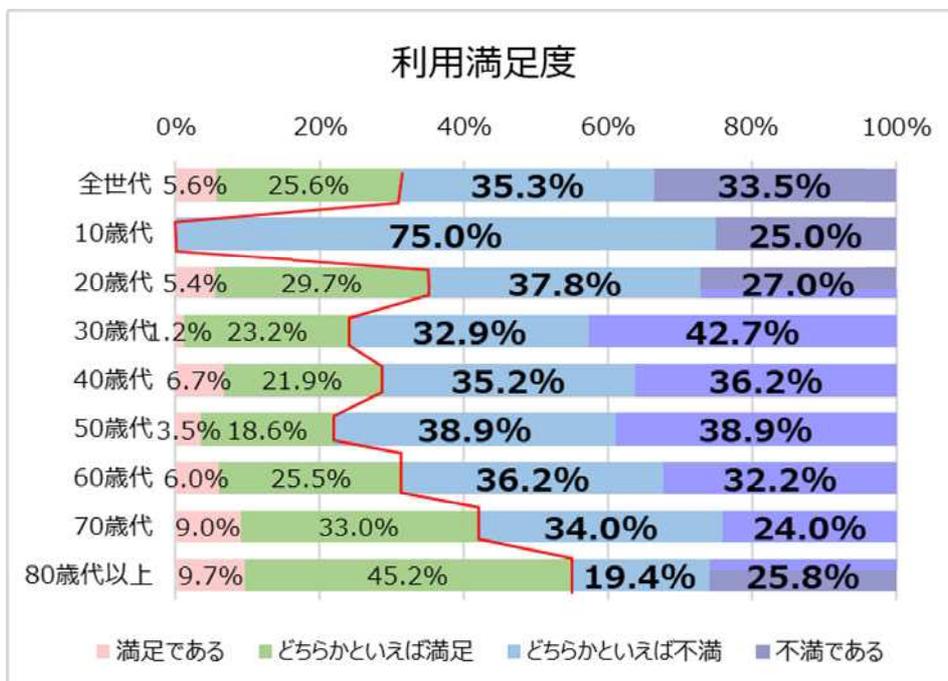
2-3 公共交通利用実態

本市の公共交通網は市域全体をカバーするように広がっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、路線バスと鉄道の利用者数はコロナ前の水準まで戻っていません。

また、公共交通に対する満足度は「満足」「どちらかと言えば満足」と回答した方が約30%、「不満」「どちらかと言えば不満」と回答した方が約70%となっています。年代別では80歳以上の満足度が最も高くなっており、その理由として、75歳以上の高齢者に移動支援として配布している「おでかけ乗車券」(4,000円分/年)の影響が考えられます。



資料：三重交通提供データ、市データ、市勢統計要覧

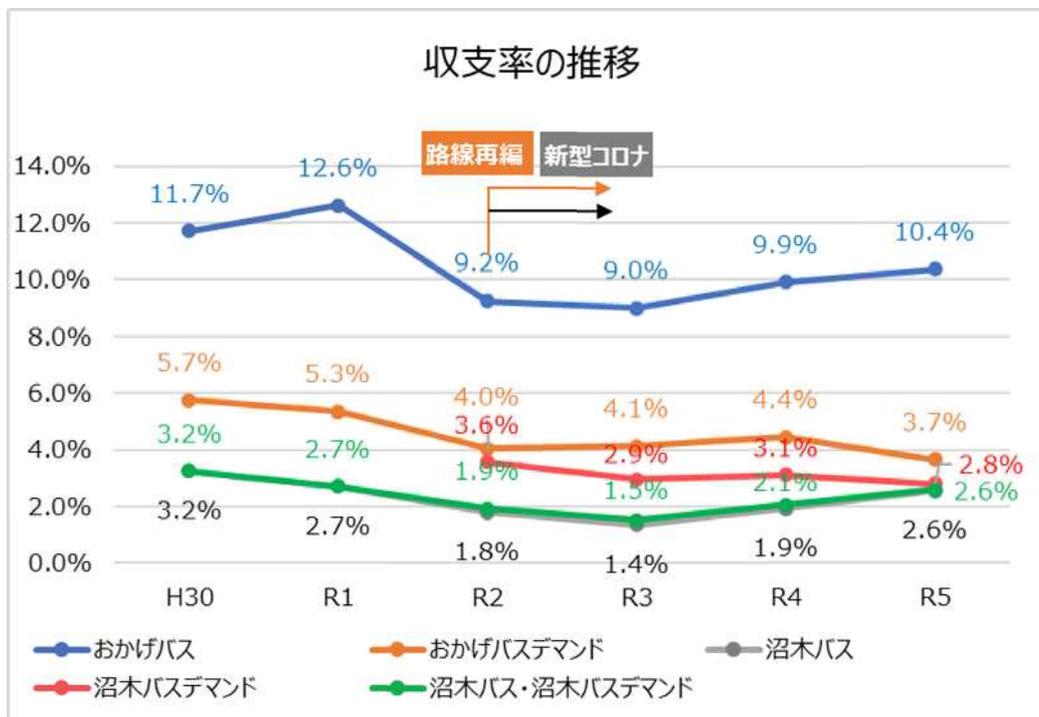


資料：R5 年度オンライン市民アンケート

2-4 コミュニティバスの収支状況

収支率は運行経費がどれだけ収入でまかなわれているかを示す指標です。

本市のコミュニティバスの収支率は、新型コロナウイルス感染症拡大による運賃収入の減少により大きく低下しました。その後、徐々に回復していますが、近年の物価高騰や燃料費高騰の影響を受け、感染症拡大以前の水準には戻っていません。



※収支率 = (運賃収入 + 広告協賛収入) / 運行経費

資料:市データ

3 (改訂)伊勢市地域公共交通網形成計画(R2年3月策定)の目標達成状況

本市では、R2年3月に「(改訂)伊勢市地域公共交通網形成計画」(以下「現行計画」という)を策定し、地域住民、交通事業者、行政が一体となり、まちづくりや地域住民の生活を支える身近で使いやすい地域公共交通を将来にわたって確保、維持していくことを目指してきました。

現行計画では、3つの基本方針と7つの目標、10の具体的な指標(重複除く)を掲げており、10の指標のうち、6指標で目標未達成となっています(R6年度時点)。日常利用に関する「基本方針1」と、観光利用に関する「基本方針2」は、おかげバス・デマンドの利用者数をのぞく全ての項目で目標未達成となっています。特に「基本方針2」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けたことが考えられます。一方で「基本方針3」は全ての項目で目標を達成しています。

	現況値							目標値
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7
基本方針1 日常生活で利用できる公共交通を目指す								
目標① 路線バスの運行維持・改善								
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人
目標② コミュニティバスの運行継続・改善の指標と目標値								
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人
沼木バスの利用者数(スクール用を除く)	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人
年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合	31%	34%	29%	25%	28%	20%	23%	21%
目標③ 公共交通の利便性向上								
外宮内宮線・CAN ばす・二見アリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人
沼木バスの利用者数(スクール用を除く)	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人
市民アンケートの交通環境満足度(満足・どちらかといえば満足)	49%	47%	51%	50%	42%	31%	32%	59%
基本方針2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す								
目標① 公共交通を利用した観光振興の推進								
内宮参拝者の公共交通利用率	31%	34%	9%	17%	25%	26%	26%	35%
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線路線バスの利用者数	2,676,600人	2,769,900人	1,130,500人	1,229,400人	1,576,900人	1,653,600人	1,783,300人	300万人
基本方針3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える								
目標① 利用するきっかけの創出								
公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	838人	187人	351人	1,302人	980人	986人	940人
目標② わかりやすい情報提供の展開								
おかげバス・おかげバスデマンドのページ(伊勢市ホームページ)アクセス数	3,876件	51,930件	24,906件	35,181件	72,368件	79,481件	64,719件	42,000件
目標③ 公共交通を地域で支え、育てる								
伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	4回/年	4回/年	3回/年	4回/年	4回/年	5回/年	4回/年
※薄字は重複項目	前回改訂		新型コロナウイルス					
□:目標値を下回る			路線再編					

それぞれの目標に対する施策の実施状況は以下のとおりです。

基本方針 1 日常生活で利用できる公共交通を目指す

目標① 路線バスの運行維持・改善

目標	施策実施状況
(1) 路線バスの運行維持・改善	三重交通(株)、まちづくり協議会などの関係者と路線バスやコミュニティバスの利用状況や要望などを共有
(2) 路線バス網の再編	R2 年度に大湊線・神社線の再編を実施
(3) 周辺市町との連携促進	三重県地域公共交通協議会地域別ワーキンググループ(伊勢志摩地域)で関係市町と情報共有を実施(直近 R6.8.22 開催)

目標② コミュニティバスの運行継続・改善

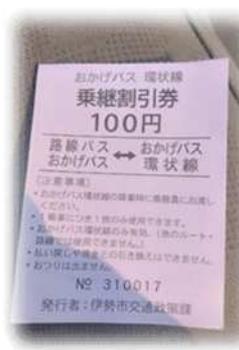
目標	施策実施状況
(1) おかげバス、おかげバスデマンドの運行維持・改善	バスの乗り方教室、バスポスターコンクール開催、伊勢まつりでの出展、GTFS リアルタイム導入、おかげバス 1 日乗車券デジタルチケットの販売などを実施 R2 年度におかげバス、おかげバスデマンド(7 路線)の再編を実施 R5 年 10 月環状線のダイヤ変更・バス停新設、R6 年 4 月辻久留・藤里線のダイヤ変更など適宜実施
(2) 市内環状バスの運行維持・改善	HP でダイヤ変更や時刻表・路線図、おでかけ乗車券の情報などを発信 おかげバス環状線乗り継ぎ割引の実施(金銭的負担の軽減)
(3) 地域主体の自家用有償旅客運送の運行維持・改善	R2 年度に沼木バスの再編を実施し、利用が少ないバス停を結ぶ系統については、沼木バスデマンドとして分離
(4) 地域が自ら検討し運営する地域交通の導入	R2 年 8 月より進修おでかけタクシーの運行開始 (修道地域は運行開始に向け検討中) R2 年 6 月より「地域運営乗合タクシー運行事業補助金」を導入
(5) IC カードの導入による利便性向上	R3 年 9 月より全国交通系 IC カード、三重交通 IC カード(エミカ)を導入、利用者は料金 1 割引
(6) 地域や施設との連携による利用促進	「おかげバスええとこめぐり」を実施(伊勢市二十歳のつどい実行委員会・有志団体) 伊勢まつり出展

目標③ 公共交通の利便性向上

目標	施策実施状況
(1) 乗継割引制度の継続	おかげバス環状線乗り継ぎ割引(おかげバス環状線⇄路線バス・おかげバス(デマンド含む)・鉄道・地域運営乗合タクシーを乗り継ぐと、おかげバス環状線の運賃が 100 円割引)を実施 鉄道については、おかげバス環状線との乗り継ぎ割引を実施 「観光 MaaS を活用した地域周遊促進モデルの実証事業」を実施(伊勢まちづくり(株))
(2) 「公共交通ネットワーク見える化」事業の推進	R6 年 10 月より GTFS-リアルタイムを導入し、Google 検索から実際の運行状況を反映した経路検索が可能となった
(3) バスロケーションシステムの導入	R2 年 11 月より三重交通バスロケーションシステム「Bus-Vision」の運用を開始

目標	施策実施状況
(4)バス停環境の改善	<p>令和 2 年に「ミタス伊勢北の上下線、「伊勢図書館」の上下線、「市役所正面」の法務局側の上屋を整備。</p> <p>令和 3 年に「ラパーク」の店側の上屋整備。(費用は三重交通と 1/2 ずつ負担)</p> <p>「外宮前」はバスロケ、料金案内を整備済み。「内宮前」「伊勢市駅前」「宇治山田駅前」「五十鈴川駅前」は上屋、バスロケ、バス乗場案内を整備済み。</p>
(5)わかりやすい公共交通利用環境への改善	<p>GTFS リアルタイムの導入、伊勢市公式 LINE アカウントによるチャットボットの「公共交通案内」導入</p>

■乗継割引制度の継続



▲おかげバス環状線乗継割引券



▲おかげバス 1日乗車券デジタルチケット

■わかりやすい公共交通利用環境への改善

<利用方法>

①伊勢市 LINE 公式アカウントのメニューから、「公共交通案内」を選択

②調べたい項目を選ぶ

③画面の案内に従って進む

(例) 公共交通時刻表
⇒バス時刻表
⇒おかげバス
⇒環状線

※お問い合わせセンターまでお問い合わせください。
TEL:0594-22-1111 (受付時間:平日 9:00~17:00)
E-MAIL:info@city-ise.ln.jp
LINE:0594-22-1111

▲LINE アカウントからの公共交通案内

基本方針 2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す

目標① 公共交通を利用した観光振興の推進

目標	施策実施状況
(1) 観光施設との連携による公共交通の利用促進	さわわかウォーキングのイベントで啓発を実施 R4 年 9 月より松阪駅～賢島駅間のサイクルトレインを本格実施
(2) 観光交通軸での連節バス運行による利用促進	R2 年 12 月よりハイブリッド連節バス「神都ライナー」を導入
(3) 多様な交通手段の組み合わせによる公共交通の利用促進	ゴールデンウィーク、初参りなどの大型連休時にパークアンドバスライド(シャトルバス運行)を実施(年 10 日程度)
	主要観光施設と鉄道、路線バスを案内する「7 カ国 8 言語マップ」を作成
	R4 年から駅周辺に民間のシェアサイクルポートの設置
	伊勢市公共交通総合時刻表において主要駅の鉄道時刻表とバス時刻表を掲載
	R5 年度「観光地における夜間のタクシー増車配備の実証事業」を実施 R6 年度「伊勢市「日本版ライドシェア」実証事業」を実施 R5 年よりおでかけ乗車券のタクシー利用を開始
(4) 企画きっぷによる利用促進	「観光型 MaaS(ぶらりすと)」による企画きっぷの販売、クーポン発行による周遊促進 まわりゃんせ、デジタルまわりゃんせ、伊勢鳥羽みちくさきっぷ、デジタル伊勢鳥羽みちくさきっぷ、みちくさきっぷ、デジタルみちくさきっぷを販売
	R6 年 1 月から JALMaaS(セントレアから高速船と貸切タクシーで伊勢市内へ)「観光型 MaaS(ぶらりすと)」の運用開始
(5) マイカー観光から公共交通観光への転換促進	らくらく伊勢もうでホームページに公共交通でのアクセス方法を公開
(6) 電気自動車等の活用による公共交通の利用促進	R5 年 4 月からおかげバスで 2 台の小型電気バス(三重応援ポケモンの「ミジュマル」をラッピング)を導入

■観光交通軸での連節バス運行による利用促進



基本方針 3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える

目標① 利用するきっかけの創出

目標	施策実施状況
(1)公共交通の利便性、実用性等の情報発信	バスポスターコンクール、バスの乗り方&交通安全教室、伊勢まつりへの出展等を実施 時刻情報提供サイトでの情報提供、GTFSリアルタイムの導入
(2)クルマと公共交通のかしこい使い方の周知とその支援	バスの乗り方&交通安全教室、時刻表の無料配布
(3)高齢者等の外出機会の増進	運転免許返納割引定期券“セーフティーパス”、運転免許返納割引(三重交通)
	寿バス券を配布(~R4年度まで) R5年度からおでかけ乗車券(名称変更)を配布、タクシーへの利用を開始
	H27年10月よりノンステップバスを導入 おでかけ乗車券のタクシー利用開始
(4)みえエコ通勤デーによる利用促進	毎週水曜日「みえエコ通勤デー」に協力(三重交通) ノーマイクーウィーク(各月第3週目)の実施

目標② わかりやすい情報提供の展開

目標	施策実施状況
(1)時刻表の発行	市内の全世帯に毎年無料で配布
(2)広報誌や市ホームページ等多様な媒体による情報提供	ホームページ、広報誌などを活用した周知を継続 GTFS-リアルタイムの導入によりスマートフォン、パソコンからバスの運行状況を確認可能に

目標③ 公共交通を地域で支え、育てる

目標	施策実施状況
(1)地域公共交通会議の活用	R1年度以降、3~4回/年実施
	各会議の要旨、資料をホームページで公表
(2)地域意見交換会の実施	沼木バス委員会への出席(2回/年)等
(3) 広告協賛金事業等多様な収入源の確保	コミュニティバスのバス停副名称のネーミングライツ実施
	バス停副名称のネーミングライツ協賛企業の伊勢市公共交通時刻表広告掲載の実施

■近年の取組

①自動運転バスの実証実験

- ・R6年11月30日～12月13日に、浦田B2駐車場～宇治橋前ロータリー間で自動運転の実証実験を実施。
- ・バスにはお伊勢さん観光案内人が同乗し、片道約15分の乗車時間中に伊勢や神宮にまつわる話をして乗客を楽しませた。
- ・自動運転は、乗務員不足が課題となっている中、新たな公共交通としての役割が期待されている。



②日本版ライドシェアの実証実験

- ・R6年12月5日～R7年3月1日の期間、日本版ライドシェアの実証実験を行った。
- ・日本版ライドシェアとは、タクシーが不足している地域や時間帯において、タクシーの代わりに一般の人が自家用車等を活用して有償で送迎を行うサービス。



③公共交通でゆく 神宮 125 社めぐり帖

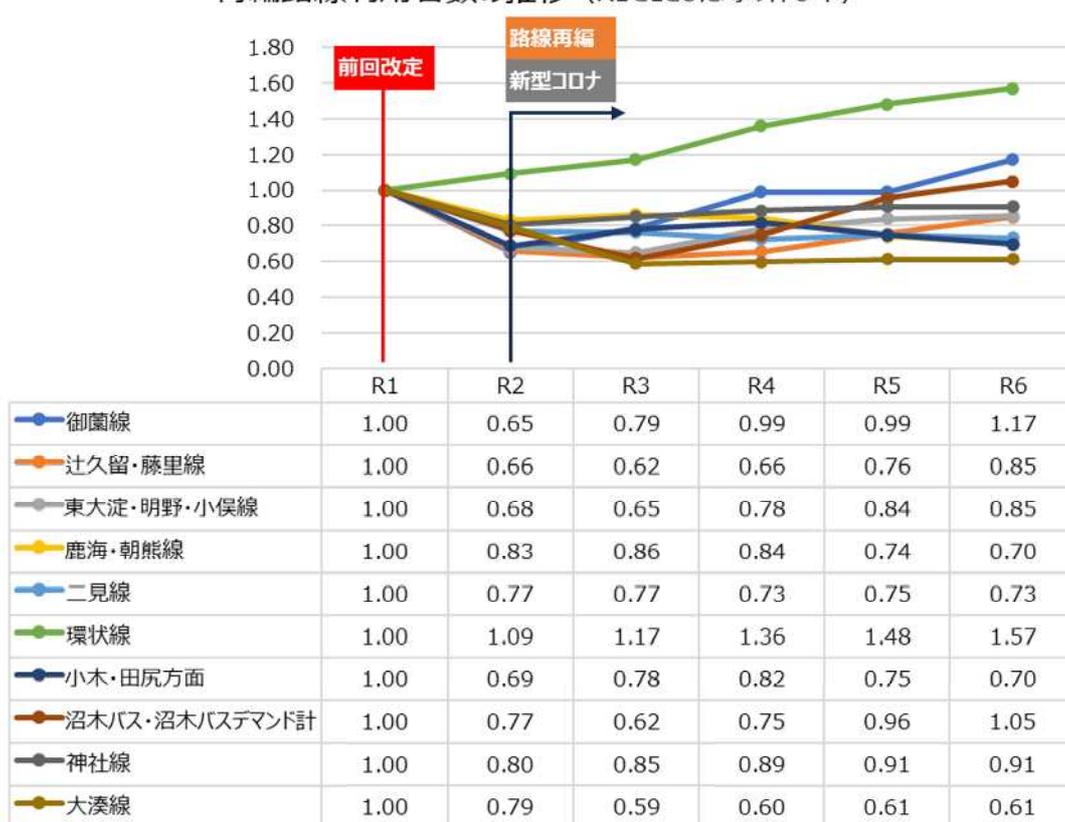
- 公共交通の利用促進を図るため、レンタサイクルやシェアサイクルを含む公共交通機関と、徒歩を組み合わせる神宮 125 社のモデルコースをエリアごとに設定し、HP 等で発信する取り組みを R7 年 2 月より開始した。



再編路線の利用者数の推移について

- R2 年 3 月の計画策定以降、再編を行った路線のうち、環状線の利用者数は毎年増加傾向にあります。その他の路線は新型コロナウイルス感染症拡大時に大きく落ち込んだのち、「鹿海・朝熊線」をのぞき横ばい～微増傾向となっています。
- 令和 4 年から利用者が減少し続けている「鹿海・朝熊線」については、地域との意見交換を行い、利用者が使いやすいダイヤや、バス停の位置の見直しなどを検討する必要があります。

再編路線利用者数の推移 (R1を1とした時の伸び率)



4 公共交通の目指す姿

4-1 公共交通の課題

本市では前ページまでに整理したように、公共交通を将来にわたって確保、維持していくために利用促進に向けた様々な取り組みを行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、設定した目標が未達成のものもある状況です。

また、公共交通網の人口カバー率や施設カバー率が高いにもかかわらず、鉄道や路線バスの利用者数はコロナ禍以前の水準を下回ったままです。さらに、市民の公共交通に対する満足度も低迷していることから、「公共交通がうまく利用されていない」という実態が見えてきます。

このほか、R15年に式年遷宮を迎えるにあたり、観光交通の充実が求められることや、少子高齢化、人口減少、バス・タクシーの運転士不足など、公共交通を取り巻く環境の変化による課題もあります。

このような公共交通の現状等を踏まえて、本市の公共交通の課題を以下のとおり整理します。

課題①	地域の実情やニーズに応じた、使いやすく利便性のある路線への再編とその維持が必要である。
課題②	公共交通をうまく利用してもらうために、利用促進のための啓発・情報発信広報やニーズの把握、わかりやすい乗車案内を進めていく必要がある。
課題③	R15年の式年遷宮に向けて、二次交通を含む観光交通の更なる充実や、外国人も含めた観光客の公共交通の利用を促進する取り組みが必要である。
課題④	地域交通の担い手を確保し、持続性のある公共交通のあり方を地域の人と共に考え、実践する必要がある。

4-2 公共交通の目指す姿

4-2-1 まちづくりの主要課題

「第3次 伊勢市総合計画(基本構想)」では、まちづくりの課題として、①子どもを産み育てやすい環境づくり、②超高齢社会への対応、③地域のつながりの再生、④集約型都市構造の促進と公共交通体系の整備、⑤選ばれるまちづくりがあげられています。

これらの課題に対して、公共交通では以下の役割が求められます。

まちづくりの課題	公共交通での対応
子どもを産み育てやすい環境づくり	子育て世代や学生のニーズに即した公共交通網の整備
	子育て世代が利用しやすい公共交通環境の整備
超高齢社会への対応	高齢者ニーズに即した公共交通網の整備
	高齢者が利用しやすい公共交通環境の整備
地域のつながりの再生	地域で考え、地域のニーズにあった公共交通の確保
集約型都市構造の促進と公共交通体系の整備	公共交通の運行維持
	移動ニーズの把握による移手段への不安解消
選ばれるまちづくり	子育て支援や教育環境充実につながる公共交通網の確保
	住民に加え、観光客が何度でも「訪れたい」と思えるまちづくり推進のため、観光施設と公共交通網の連携強化

4-2-2 将来像と基本理念

本市の公共交通の現状や、総合計画等を踏まえて本計画の基本理念を次のとおり設定します。

目指す 将来像	行きたい時に、行きたい場所へ おでかけも観光も楽しめる持続可能な地域公共交通 案 1
目指す 将来像	行きたい時に行きたい場所へ、 暮らしと観光がにぎわう地域公共交通 案 2
目指す 将来像	行きたい時に行きたい場所へ、 ●●●●地域公共交通 案 3

また、将来像の実現に向け、以下の基本理念のもと、事業を推進します。

基本 理念	私たちが「創り」「活かし」「めぐり」「育てる」 交流と活力に満ちた地域公共交通網の構築 案 1
基本 理念	私たちが「創り」「活かし」「めぐり」「育てる」 地域で支え未来へ残す地域公共交通網の構築 案 2
基本 理念	私たちが「創り」「活かし」「めぐり」「育てる」 ●●●●地域公共交通網の構築 案 3

4-2-3 基本方針

本計画が目指す将来像や基本理念を実現するために、4つの基本方針を定め、事業の推進を図ります。

基本方針 1

創る
～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～

- 鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通の連携を図り、地域ニーズにあった円滑で利便性の高い公共交通網を形成します。
- SDGsの実現やドライバー不足解消に向け、次世代交通の導入に向けた取組を継続します。

基本方針 2

活かす
～公共交通を使っておでかけできる、楽しい伊勢を実現する～

- 地域イベントとも連携した広報やわかりやすい乗車案内、料金負担軽減策等を通じて、これまで公共交通を利用する機会がなかった方にも利用してもらえるよう、公共交通を使いやすい環境を形成します。

基本方針 3

めぐる
～公共交通を利用する観光交通が充実した伊勢を実現する～

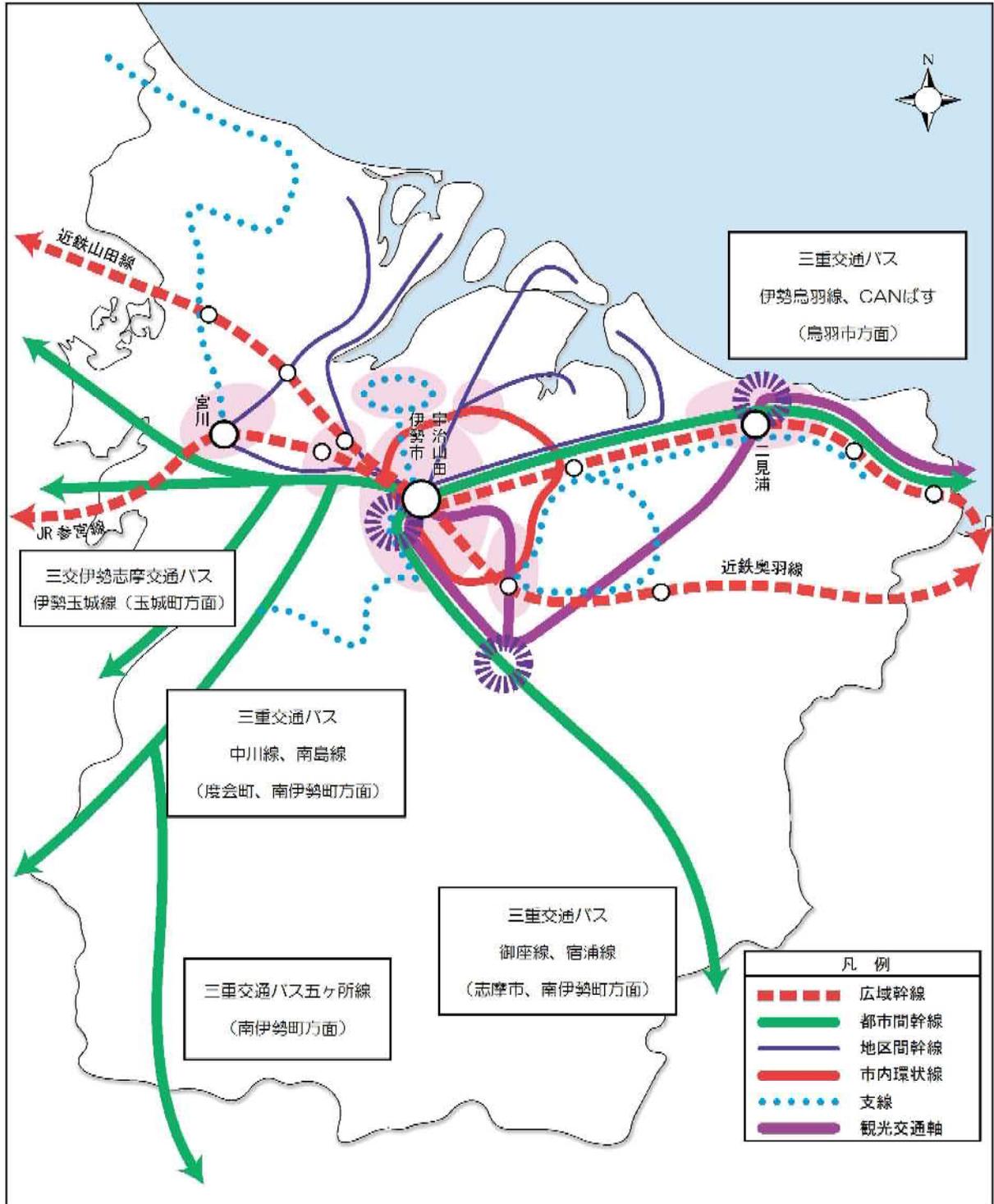
- 次期式年遷宮に向けた交通環境の整備、MaaSへの取組などを通じて、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を進めます。

基本方針 4

育てる
～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～

- 持続可能な公共交通を実現するため、市、交通事業者、住民の方々が一体となって公共交通を考える環境づくりを目指します。

伊勢市の公共交通体系



下表の路線については、地域公共交通確保維持事業により、国や県の補助を活用して引き続き運行を維持していきます。

地域間幹線系統路線(事業主体:三重交通(株)・三交伊勢志摩交通(株))

位置づけ	路線名	運行態様	運行区間		
			起点	主な経由地	終点
都市間幹線	(31)南島線	路線定期運行	伊勢市駅前	大倉うぐいす台、中村	南島道方
	(25、26)中川線		伊勢市駅前	度会橋	度会町役場前
	(24)伊勢玉城線		伊勢市駅前	度会橋、上地／掛橋、田丸駅前	田丸城跡(玉城町役場前)
	(60、62)御座線		伊勢市駅前	磯部バスセンター、鶯方駅前	御座港
	(70)宿浦線		伊勢市駅前	磯部バスセンター、鶯方駅前	宿浦
	(80)五ヶ所線		宇治山田駅前	上野	五ヶ所バスセンター
地区間幹線	(12)土路今一色線		土路	宮町駅口、伊勢市駅前、宇治山田駅前、通り口	今一色

※土路今一色線は現在県が利便増進計画を策定中、運輸局から利便の特例が適用されればその旨明記する

※伊勢玉城線のみ三交伊勢志摩交通(株)が運行

下表の路線については、地域公共交通確保維持事業(フィーダー系統)により、国の補助を活用して引き続き運行を維持していきます。

地域内フィーダー系統路線(事業主体:伊勢市)

位置づけ	路線名	運行態様	運行区間			
			起点	主な経由地	終点	
市内環状線	環状線	路線定期運行	伊勢市駅前	伊勢赤十字病院、伊勢病院前	伊勢市駅前	
支線	おかげバス		(2)辻久留・藤里線	大倉うぐいす台	伊勢やすらぎ公園、ベリ-藤里店、勢田町	伊勢市役所正面
			(7)鹿海・朝熊線	いせトピア	朝熊町	いせトピア
			(8)二見線	松下広場	プライスカット伊勢二見店、浜郷小学校前	五十鈴川駅前
			(10)東大淀・明野・小俣線	伊勢赤十字病院	近鉄明野駅前、三重ハートセンター	山大淀
沼木バス	市内連絡用(1)		床ノ木	横輪口、沼木神社北	神園	
			床ノ木	横輪口、津村	度会町役場前	

各路線の地域公共交通確保維持事業の必要性は以下のとおりです。

各路線の補助事業の必要性

路線名	当該系統の必要性
(31)南島線	県道伊勢南島線沿いや沼木地区の住民にとっては、伊勢市駅などの中心市街地への交通手段として重要な役割を担っているほか、沿線の小学校(佐八小学校、中島小学校)への通学利用もある。沿線に立地する小学校の児童及び高等学校の生徒の通学や地域住民が病院への通院するために必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
(25、26)中川線	県道伊勢大宮線沿い(城田地区)の住民にとっては、伊勢市駅などの中心市街地への交通手段として重要な役割を担っている。沿線に立地する高等学校の生徒の通学や病院への通院の利用に必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
(24)伊勢玉城線	小俣地区、城田地区の住民にとっては、伊勢市駅などの中心市街地やMEGA ドン・キホーテなどへの商業施設への交通手段を担っている。沿線住民の通勤や沿線に立地する病院への通院、中心市街地への買物、観光地へのレジャー等の利用に必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
(60、62)御座線	志摩方面から伊勢市駅などの中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として重要な役割を担っている。伊勢市内や志摩方面から伊勢市駅などの中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
(70)宿浦線	志摩方面から伊勢市駅などの中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として重要な役割を担っている。志摩方面から伊勢市駅などの中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
(80)五ヶ所線	県道伊勢南島線沿いや沼木地区の住民にとっては、伊勢市駅などの中心市街地への交通手段として重要な役割を担っているほか、沿線の小学校(佐八小学校、中島小学校)への通学利用もある。沿線に立地する小学校の児童や高等学校の生徒の通学等の利用に必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
(12)土路今一色線	東豊浜地区、二見町今一色地区及び西地区を運行する唯一のバス路線であり、伊勢市駅などの中心市街地までの移動手段として必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
おかげバス環状線	市内の各幹線や支線等、かつ、地域の生活拠点である商業施設、医療施設及び公共施設等を結び、地域内の移動を担う路線、幹線を補完する路線として必要不可欠である。一方で、市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
おかげバス (2)辻久留・藤里線	伊勢市大倉町、辻久留町、前山町、旭町、藤里町、勢田町鷹泊・千寿台団地から鉄道駅(宇治山田駅、伊勢市駅)、公共施設(伊勢市役所、三重県伊勢庁舎等)、藤里町の個人医院への通院、商業施設等への移動手段として必要不可欠な路線である。一方で、市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

路線名	当該システムの必要性
おかげバス (7)鹿海・朝熊線	伊勢市朝熊町、一字田町、鹿海町等からの四郷小学校への通学、伊勢総合病院への通院、近鉄五十鈴川駅、商業施設、公共施設(生涯学習センター)等への移動手段として必要不可欠な路線である。一方で、市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
おかげバス (8)二見線	伊勢市二見町地区からの伊勢総合病院への通院、近鉄五十鈴川駅、商業施設、公共施設(生涯学習センター)等への移動手段として必要不可欠な路線である。一方で、市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
おかげバス(10)東 大淀・明野・小俣線	明和町大淀地区、伊勢市東大淀町、村松町、小俣町明野地区、野村町等からの鉄道駅(近鉄明野駅・JR 宮川駅)、公共施設(小俣郵便局・小俣図書館・小俣総合支所等)、伊勢赤十字病院、小俣町中心部、明和町大淀地区の個人医院への通院、商業施設等への移動手段として必要不可欠な路線である。一方で、市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
沼木バス 市内連絡用(1)/市 内連絡・買物用(1)	沼木地区の住民にとっては、沿線に立地する病院への通院や買物のほか、沿線に立地する小学校の児童や、中学校・高等学校の生徒の通学時に必要不可欠な路線である。一方で、市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

5 計画目標と目標指標(KPI)

5-1 計画目標

4つの基本方針にそって具体的な目標を定め、事業を推進します。また、目標ごとに具体的な数値目標(KPI)を設定し、達成状況を評価していきます。なお、本市の公共交通の現状を踏まえ、特に重点的に取り組むべき目標を「重点目標」として設定しました。

基本方針 1

創る

～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～

目標① 路線網の維持・改善

重点目標

- (1) 路線の維持・改善
- (2) ダイヤ調整
- (3) 交通空白の解消
- (4) 関係者との連携

目標② 周辺環境の改善

- (1) わかりやすい案内環境の整備
- (2) バス待ち環境の改善

目標③ 次世代公共交通の導入

重点目標

基本方針 2

活かす

～公共交通を使っておでかけできる、楽しい伊勢を実現する～

目標① 利用するきっかけの創出

重点目標

- (1) 公共交通への興味喚起
- (2) 公共交通を利用したお出かけを促進
- (3) 利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

目標② わかりやすい情報発信による利用促進

- (1) 積極的な広報の実施
- (2) わかりやすい乗車案内

基本方針 3

めぐる

～公共交通を利用する観光交通が充実した伊勢を実現する～

目標① 観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

目標② 観光満足度を上げ、何度でも訪れたいと思える公共交通観光の提案

目標③ 外国人観光客の公共交通使いやすさの向上

基本方針 4

育てる

～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～

目標① 担い手確保

重点目標

目標② 収入源の確保

目標③ 公共交通を考える

- (1) 公共交通会議の活用
- (2) 地域自らが公共交通を考える機会の創出

5-2 目標指標(KPI)

基本方針ごとに設定した目標の達成状況を評価する指標(KPI)を以下のとおり定め、計画期間の最終年度である R12 年度に向けて毎年その達成状況を評価していきます。

基本方針 1

創る

～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～

目標① 路線網の維持・改善

重点目標

- (1)路線の維持・改善
- (2)ダイヤ調整
- (3)交通空白の解消
- (4)関係者との連携

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①観光路線をのぞく路線バスの利用者	113.8 万人	114 万人
②おかげバスの利用者(環状線をのぞく)	65,292 人	7 万人
③おかげバス環状線の利用者	60,611 人	7 万人
④おかげバスデマンドの利用者	2,660 人	3,000 人
⑤沼木バスの利用者	2,677 人	2,700 人
⑥沼木バスデマンドの利用者	594 人	650 人
⑦地域運営乗合タクシーの利用者数	198 人	200 人
⑧年間利用者数 72 名未満のコミュニティバス停留所の割合	23%	5%減
⑨公的資金投入額		現状維持
⑩収支率		現状維持

目標② 周辺環境の改善

- (1)わかりやすい案内環境の整備
- (2)バス待ち環境の改善

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①公共交通利用満足度	32%	40%
②新たに設置した上屋、ベンチ等の個数	—	10 基

目標③ 次世代公共交通の導入

重点目標

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①電気バス及びハイブリッド連節バスの台数	4 台	維持
②自動運転バスの導入台数	0 台	1 台
③CO2 削減量【加藤先生に相談】		

基本方針 2

活かす

～公共交通を使っておでかけできる、楽しい伊勢を実現する～

目標① 利用するきっかけの創出

重点目標

- (1)公共交通への興味喚起
- (2)公共交通を利用したお出かけを促進
- (3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①ポスターコンクール応募者	314 人	児童数の 7%
②利用啓発イベント参加者数	986 人	1,100 人
③おでかけ乗車券の利用率	32.6%	40%
④子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度 (10代～30代・70代以上の満足度)	36%(R5)	50%

目標② わかりやすい情報発信による利用促進

- (1)積極的な広報の実施
- (2)わかりやすい乗車案内

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①伊勢市交通政策課 HP の PV 数	64,719 件	R6 比 10%増
②LINE チャットボットの起動回数	5,163 回	R6 比 10%増
③SNS フォロワー数	0 人	1,000 人

基本方針 3

めぐる

～公共交通を利用する観光交通が充実した伊勢を実現する～

目標① 観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

- 1) 遷宮に向けた交通環境の整備を行う
- 2) シェアサイクル・レンタサイクルなど多様な交通手段の組み合わせによる二次交通の充実を図る
- 3) 伊勢志摩観光型 MaaS の取り組み継続による周遊観光の促進
- 4) 店舗、宿泊施設と公共交通が連携した新たなサービスを展開する
- 5) ゴールデンウィーク・初参り時に、公共交通の積極的な利用を呼びかける

目標② 観光満足度を上げ、何度でも訪れたいと思える公共交通観光の提案

- 1) マイカーによる「ショートカット観光」から、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進する
- 2) 観光施設へのアクセスを円滑化するため、モデルルートの提案など SNS 等による情報提供を行う

目標指標	現況値 (R6 年度)		目標値 (R12 年度)
①近鉄、JR 主要駅の乗客数			4,900 千人
②外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線の利用者数	1,783,300 人		R6 比 30%増
③サイクルトレインの利用者数、 レンタサイクルの利用台数	サイクルトレイン	157 人/月 (R5)	R5 比 15%増
	レンタサイクル	6,200 台/年 (R4)	R5 比 35%増

目標③ 外国人観光客の公共交通使いやすさの向上

- (1) 多言語表示、多言語案内コンテンツの作成等、外国人観光客の公共交通の使いやすさの向上を図る

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①新たに整備する外国人向けの公共交通案内表示、動画、ウェブサイト等のコンテンツ数	0	10

基本方針 4

育てる

～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～

目標① 担い手確保

重点目標

- (1)バス・タクシーのドライバー確保に向けた取組を推進する
- (2)運行管理や点検等を含めた車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎを行う

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①乗合バスの運転手不足による減便を 0 にする	0	0
②タクシー登録台数 or ライドシェアの本格実施 【加藤先生に相談】		

目標② 収入源の確保

- (1)バス停のネーミングライツや車内放送など、公共交通を企業や店舗の PR など活性化のツールとして活用する

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
広告協賛企業数	5社	7社

目標③ 公共交通を考える

- (1)公共交通会議の活用
- (2)地域自らが公共交通を考える機会の創出

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
伊勢地域公共交通会議の開催 【望ましい方向:4回/年以上の定期開催+地域課題に応じた臨機な開催】	5回/年	—
②地域との懇談会等の回数	2回/年	3回以上/年

6 実施事業と実施スケジュール

設定した目標、目標指標を達成するため、官民連携して事業を推進していきます。なお、特に重点的に取り組む目標を「重点目標」として設定しました。

基本方針 1

創る
～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～

目標① 路線網の維持・改善

重点目標

- (1) 路線の維持・改善
- (2) ダイヤ調整
- (3) 交通空白の解消
- (4) 周辺市町との連携強化

目標② 周辺環境の改善

- (1) わかりやすい案内環境の整備
- (2) バス待ち環境の改善

目標③ 次世代公共交通の導入

重点目標

本目標の達成のためには、市と交通事業者が連携し、適切な役割分担のもとで、地域ニーズにあった路線再編やダイヤ調整を行っていく必要があります。また、既存の公共交通網ではカバーしきれない交通空白地帯については、その解消に向けた取組を市、交通事業者、地域が連携して進めていきます。

なお、市内を走行するバス路線の一部は周辺市町へも接続していることから、利用促進に向けてより一層の連携強化を図ります。

実施事業	
(1) 路線の維持・改善	
1) 市と交通事業者が連携し、適正な役割分担のもとで、地域ニーズにあった路線再編を実施する	
2) 路線バスの運行維持・改善	
3) おかげバス・おかげバスデマンドの運行維持・改善	
4) 市内環状線バスの運行維持・改善	
(2) ダイヤ調整	
1) ICカード利用履歴等のモビリティ・データを活用したダイヤ調整	
2) おかげバス、路線バス、鉄道が連携した乗り継ぎ利便性を確保する	
(3) 交通空白の解消	
1) 交通事業者が連携し交通空白地帯の解消に向けた取組を推進する	
2) 市、交通事業者、地域が連携し、地域交通の導入・維持を図る	
(4) 周辺市町との連携強化	
1) 周辺市域と連携し、より効果的なバス路線を構築する	

(1) 路線の維持・改善

■実施主体:伊勢市、バス事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域ニーズにあった路線再編	調査	路線再編			調査
2)路線バスの運行維持・改善	継続的なモニタリングと運行内容改善				
3)おかげバス・おかげバスデマンドの運行維持・改善	継続的なモニタリングと運行内容改善				
4)市内環状線バスの運行維持・改善	継続的なモニタリングと運行内容改善				

(2) ダイヤ調整

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)IC カード利用履歴等のモビリティ・データを活用したダイヤ調整	履歴調査	ダイヤ調整			履歴調査
2)乗り継ぎ利便性の確保	課題共有	市・事業者による対策実施			

(3) 交通空白の解消

■実施主体:伊勢市、交通事業者、周辺市町、地域住民

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)交通事業者が連携した取組の推進	課題共有	市・事業者による対策実施			
2)市、事業者、地域が連携した地域交通の導入・維持	課題共有	市・事業者による対策実施			

(4) 周辺市町との連携強化

■実施主体:伊勢市、周辺市町

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)周辺市町との連携強化	継続的な協議と連携策推進				

目標② 周辺環境の改善

(1)わかりやすい案内環境の整備

(2)バス待ち環境の改善

公共交通を利用しやすい環境を創出するため、時間の案内や、場所の案内などわかりやすい案内環境の整備を進めていく必要があります。

また、迷わず乗り継ぎが出来るような案内表示の整備や、季節を問わず快適にバスを待つことのできる環境の整備を進めていきます。

実施事業	
(1)わかりやすい案内環境の整備	
1)バスロケーションシステムを活用した案内サイネージの設置を推進する(時間の案内)	
2)路線バスとコミュニティバスのバス停名統一、鉄道駅や主要バス停までの案内表示を行う(場所の案内)	
(2)バス待ち環境の改善	
1)主要バス停の乗り継ぎ案内表示、上屋・ベンチ等の整備を図る	

(1) わかりやすい案内環境の整備

■実施主体:伊勢市、バス事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)バスロケーションシステムを活用した案内サイネージ設置	調査	対策実施			
2)わかりやすいバス停環境への改善	課題共有	市・事業者による対策実施			

(2) バス待ち環境の改善

■実施主体:伊勢市、バス事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)主要なバス停の環境改善	対策実施				

地球規模での温暖化が懸念される中、公共交通においては CO₂ 排出量の削減等に取り組んでいく必要があります。本市では電気バスやハイブリッドバスの導入を進めてきました。今後もこれらの取組をより一層推進していきます。

また、ドライバー不足が懸念される中、大量輸送が可能な接続バスや自動運転バスの導入、ライドシェアの実施など、様々な運行形態への取組を推進していく必要があります。自動運転バス、ライドシェアについては R6 年度に実証実験を行いました。引き続き国や交通事業者、地域の方々と連携して検証を継続していきます。

実施事業
(1)「小型電気バス」、「ハイブリッド連節バス神都ライナー」の導入促進による、CO ₂ の削減に努める
(2)自動運転バスの導入に向けた実証実験を実施し、本格導入を目指す
(3)自転車・シェアモビリティと公共交通との連携やグリーンスローモビリティなど、新たな交通システム導入について研究を行う

■実施主体:伊勢市、交通事業者、国

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
(1)小型電気バス、ハイブリッド連節バス神都ライナーの導入促進	導入の継続				
(2)自動運転バスの導入に向けた実証実験の実施と本格導入	実証実験		本格導入		
(3)新たな交通システム導入に向けた研究の実施	市・事業者による研究の実施				

基本方針 2

活かす

～公共交通を使っておでかけできる、楽しい伊勢を実現する～

目標① 利用するきっかけの創出

重点目標

- (1)公共交通への興味喚起
- (2)公共交通利用によるお出かけの促進
- (3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

これまでも「バスの乗り方教室」や「バスポスターコンクールの開催」「伊勢まつりへの出展」、HP などコミュニティバスの利用促進に向けた広報活動を行ってきましたが、今後もこれらの活動を継続するとともに、料金負担軽減策を継続し、これまで公共交通を利用する機会がなかった方にも「利用してみよう」と思ってもらえるような取組を推進します。

また、利用者ニーズ調査を行い、ニーズに合った路線網の再編を実施します。ニーズ調査は、特に重点的に利用促進を図る対象(子育て世代、高齢者、学生)のニーズや、現在路線バスを利用していない方々のニーズ(潜在ニーズ)を把握するために実施します。

実施事業	
(1)公共交通への興味喚起	<ul style="list-style-type: none"> 1)バスポスターコンクール、乗り方教室、伊勢まつりでの利用促進など「楽しさ」を届ける啓発を実施する 2)三重応援ポケモン「ミジュマル」の電気バスを活用した啓発を実施する 3)さわやかウォーキングなどのイベント、啓発を通し、鉄道利用者の増加を促進する
(2)公共交通を利用したお出かけを促進	<ul style="list-style-type: none"> 1)学生・子育て世代・高齢者の公共交通に対する利用ニーズを調査し、ニーズに合った利用促進を実施する 2)地域イベントや施設との連携による公共交通の利用を促進する
(3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 1)セーフティーパスやおでかけ乗車券など多様な交通手段で利用出来る料金負担軽減策を推進する

(1) 公共交通への興味喚起

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)「楽しさ」を届ける啓発活動の実施	▶				
2)三重応援ポケモン電気バスを活用した啓発の実施	▶ 市・事業者による対策実施				
3)鉄道利用者の増加促進	▶				

(2) 公共交通を利用したお出かけを促進

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)子育て世代、高齢者、学生のニーズ調査と利用促進策実施	調査	市・事業者による対策実施			
2)イベント、施設との連携による公共交通利用促進	市・事業者による対策実施				

(3) 利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)料金負担軽減策の推進	事業の継続				

目標② わかりやすい情報発信による利用促進

- (1)積極的な広報の実施
- (2)わかりやすい乗車案内

公共交通を積極的に利用していただくためには、わかりやすい乗車案内が重要です。多様な手段を用いた広報を積極的に実施し、利用しやすい公共交通環境を整えていきます。

実施事業	
(1)積極的な広報の実施	
1)地域のイベントと連携した公共交通利用促進の広報を実施する	
2)HP や SNS、チラシ配布など多様な媒体を活用した広報を実施する	
3)周辺市町と情報の共有、周知活動を行う	
(2)わかりやすい乗車案内	
1)GTFS-リアルタイム、LINE アカウントによるチャットボットの公共交通案内、総合時刻表の配布など多様な手段を用いた乗車案内を実施する	
2)鉄道・バスによるアクセス方法や料金等の周知を実施する	
3)「三重県内の公共交通見える化プロジェクト」との連携を図る	

(1) 積極的な広報の実施

■実施主体:伊勢市、交通事業者、周辺市町

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)イベントと連携した利用促進広報の実施	市・事業者による対策実施				
2)多様な媒体を活用した広報の実施	市による広報の継続				
3)周辺市町との情報共有、周知活動実施	課題共有、周知活動実施				

(2) わかりやすい乗車案内

■実施主体:伊勢市、交通事業者、三重県

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)多様な手段を用いた乗車案内の実施	市・事業者による広報の実施				
2)アクセス方法、料金等の周知	市による広報の実施				
3)三重県内の公共交通ネットワーク見える化プロジェクトとの連携	県との連携による情報提供実施				

目標① 観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

本市は、伊勢神宮御鎮座のまちとして栄えてきた歴史を有し、多くの観光客が訪れています。観光客の方々にも公共交通を利用していただき、市内に点在する観光地を周遊し、より本市での観光を楽しんでいただくことは、公共交通の利用促進に加えて、リピーターの確保など観光振興にも寄与することとなります。

そのため、シェアサイクル等も含めた多様な交通手段の組み合わせによって、駅から観光地へのアクセス性をより向上させるとともに、公共交通の積極的な利用促進を呼びかけていきます。また、市内の店舗や宿泊施設と連携した新たなサービスの展開について検討を進めます。

また、R15年に予定される次期式年遷宮に向けて、本計画の計画期間中には様々な行事が行われ、多くの人が本市を訪れることが想定されることから、交通環境の整備を進めていきます。

実施事業
(1) 遷宮に向けた交通環境の整備を行う
(2) シェアサイクル・レンタサイクルなど多様な交通手段の組み合わせによる二次交通の充実を図る
(3) 伊勢志摩観光型 MaaS の取り組み継続による周遊観光の促進
(4) 店舗、宿泊施設と公共交通が連携した新たなサービスを展開する
(5) ゴールデンウィーク・初参り時に、公共交通の積極的な利用を呼びかける

■実施主体：伊勢市、交通事業者、観光施設・店舗・宿泊施設、伊勢地域観光交通対策協議会

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
(1) 遷宮に向けた交通環境の整備	市・事業者による対策実施				
(2) 二次交通の充実	市・事業者による対策実施				
(3) MaaS の取組継続	市・事業者による対策実施				
(4) 店舗、宿泊施設と連携した新たなサービス展開	課題共有・対策検討	市・事業者による対策実施			
(5) 公共交通の積極的な利用促進	市・事業者による対策実施				

目標② 観光満足度を上げ、何度でも訪れたいと思える公共交通観光の提案

「令和 6(2024)年伊勢市観光客実態調査報告書」によると、R6 年に市内を訪れた観光客の総合満足度は 87.4 点ですが、移動・交通に関する満足度は 78.5 点と 7 つの調査項目の中で最も低い点数となっています。

本市を訪れた方々の移動・交通に関する満足度を向上させ、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進すべく、モデルルートの提案など情報提供を行います。

実施事業
(1)マイカーによる「ショートカット観光」から、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進する
(2)観光施設へのアクセスを円滑化するため、モデルルートの提案など SNS 等による情報提供を行う

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換促進	市・事業者による対策の実施				
2)モデルルート提案など SNS による情報提供実施	市・事業者による対策の実施				

目標③ 外国人観光客の公共交通使いやすさの向上

日本を訪れる外国人旅行者数は R6 年に 3,687 万人と過去最高を記録しました。本市を訪れる外国人旅行者も R6 年に約 11 万人(神宮参拝者数)となり、R 元年以降で最高を記録しています。

そのため、本市を訪れる外国人旅行者が快適に公共交通を利用できるよう、多言語表示や多言語案内コンテンツを作成するなど、外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上を図っていきます。

実施事業
(1)多言語表示、多言語案内コンテンツの作成等、外国人観光客の公共交通の使いやすさの向上を図る

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)外国人観光客の公共交通の使いやすさの向上	調査	対策の実施			

基本方針 4

育てる
～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～

目標① 担い手確保

重点目標

本市では運行主体の高齢化が課題となっており、持続可能な公共交通を実現するため、ドライバー確保に向けた取組を推進していく必要があります。また、車両管理ノウハウなどを次世代に引き継いでいくことも重要です。

実施事業
(1)バス・タクシーのドライバー確保に向けた取組を推進する
(2)運行管理や点検等を含めた車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎを行う

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
(1)ドライバー確保に向けた取組推進	協議	市・事業者による対策の実施			
(2)車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎ	事業者によるノウハウの継承				

目標② 収入源の確保

持続可能な公共交通を実現するため、利用促進を図り運賃収入を安定させるとともに、バス停のネーミングライツや車内放送による広告収入など、多様な収入源を確保していく必要があります。

実施事業
(1)バス停のネーミングライツや車内放送など、公共交通を企業や店舗のPR など活性化のツールとして活用する

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
(1)公共交通を企業等のPR ツールとして活用	市・事業者による対策の継続				

目標③ 公共交通を考える

持続可能な公共交通の実現には市や交通事業者が地域の方々と一体となって、要望や課題を共有し、その解決に向けて様々な取組を進めて行くことが重要です。そのため、公共交通会議を定期的
に開催することはもとより、新たな課題が発生した場合は、その課題の関係者にも会議に出席して
いただき課題解決に取り組むなど臨機に開催し、「地域とともにある公共交通会議」を目指します。

また、地域との意見交換や対話の場を設け、課題が深刻化する前に対応を検討できる関係性を構
築し、みんなで公共交通を考える伊勢市を目指します。

実施事業	
(1)公共交通会議の活用	
1)定期開催に加えて、地域課題に合わせた臨機な開催により、新たな課題解決の場として公共交通会議を活用し、地域と共にある会議を目指す	
2)高齢化の影響が懸念される地区の公共交通のあり方、将来の交通体系を検討する新たなスキームについて検討する	
3)公共交通会議での検討状況を HP などを通じて定期的に発信する	
(2)地域自らが公共交通を考える機会の創出	
1)地域との意見交換の場を積極的に持ち、地域課題の把握と地域自らが中心となって地域交通の必要性や運行改善などを考える機会を設ける	
2)沼木バス(沼木バスデマンドを含む)について、地域主体の自主運行バスの在り方を協議し、令和 9 年度を目標に再編を行う。	

(1) 公共交通会議の活用

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域住民、国、三重県

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域と共にある公共交通会議の開催	会議の継続開催				
2)将来の高齢化を見越した公共交通のあり方検討	調査・検討				
3)公共交通会議での検討状況の定期的な発信	市による定期的な発信				

(2) 地域自らが公共交通を考える機会の創出

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域住民

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域との意見交換の実施	地域との対話の実施				
2)沼木バスに関する地域との対話と在り方の検討	地域との対話・利用促進策検討				

7 目標達成状況の評価

計画期間中は、毎年度、本計画に定めた事業の実施状況に関する調査、分析及び指標に対する評価を行います。具体的には、本計画や事業の立案(Plan)に基づき、本計画に記載する実施主体による実行(Do)、その結果及び効果、課題の確認、分析、共有等(Check)を行い、必要に応じて計画や事業の改善、見直し(Action)を行うなど、年度ごとのPDCAサイクルによる着実な推進を図ります。

また、計画期間の最終年度となる R11 年度には、計画期間中の事業実施状況と目標指標達成状況の評価とともに、社会状況も踏まえた次期計画策定に向けた各種調査等を実施します。

毎年の事業実施状況や指標に対する評価は、伊勢市公共交通会議において関係者間で共有し、一般に公開するとともに、新たな検討課題や事業の改善、見直し(Action)が必要となった場合は、幹事会や専門部会の設置も含めて対応します。

年度単位のスケジュール

区分	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
事業計画(P)					
事業実施(D) ※					
実施状況の 確認・共有(C)	 必要に応じて報告 報告				
新たな課題・ 事業内容の改善 (A)					

※必要に応じて幹事会や専門部会を設置し、事業実施体制の強化を図る

年度のスケジュール

区分	N 年度												N+1 年度					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地域公共交通会議の開催			●				●		●		●				●			
	<p>会議の実施時期は目安であり、議案・報告事項の進捗によって柔軟に開催する。 【議案・報告事項】C・A・P ・決算、予算の協議 ・各年度評価の報告 ・新規事業計画の報告 等 ・事業実施状況の報告 ・地域の公共交通課題の共有</p> <p>必要に応じて幹事会・専門部会 → 必要に応じて幹事会・専門部会</p>																	
地域公共交通確保維持事業		● P 本年度の計画 認定申請 (会議での承認)				● 計画認定 (本年度)		● 前年度 補助金 交付申請		● C 前年度 十次 審査	● C 前年度 二次 審査				● P 来年度の計画 認定申請 (会議での承認)			
	地域内交通の運行(前年度) D						地域内交通の運行(本年度) D											
事業実施							● D 伊勢まつり											
	各種事業の実施 D → 各種事業の実施 D																	
評価・検証											● C A 対話型評価 (関係者の双方型の コミュニケーション) 目標指標に 関連するデータ	● C 目標指標の評価 目標指標に 関連するデータ						

【P:Plan、D:Do、C:Check、A:Action】

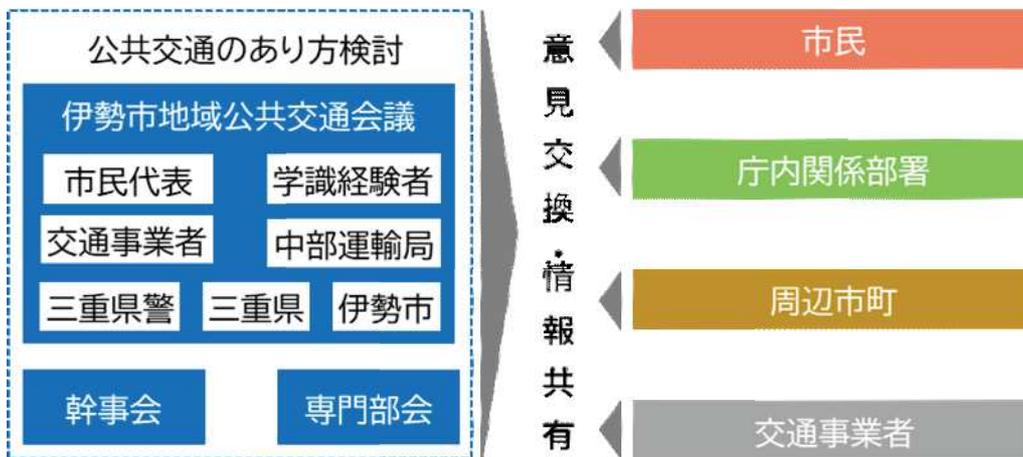
8 計画推進に向けた取組

8-1 機動的・横断的な実行体制

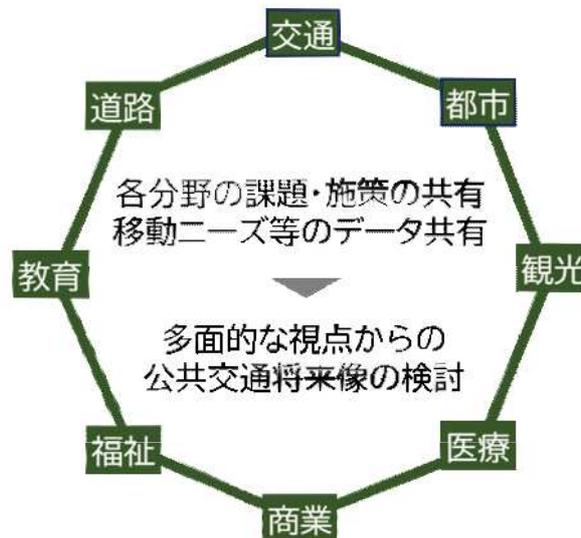
本計画は、伊勢市地域公共交通会議により管理を行うものとし、円滑な協議を行うために幹事会を設置するとともに、地域の実情に即した課題や専門的な個別課題について協議をする必要が生じた場合は専門部会を設置して議論を深めます。

また、計画が目指す将来像や基本理念を実現するために、市民のみなさんや庁内の関係部署、周辺市町と協働・連携して事業を進めます。特に、地域のニーズに即した公共交通ネットワークを形成するために市民の方々との対話やアンケートによるニーズの掘り起こしを進めるとともに、持続可能な公共交通の確立に向けて交通事業者との定期的な意見交換や情報共有を行います。

伊勢市地域公共交通会議と関係者の連携イメージ



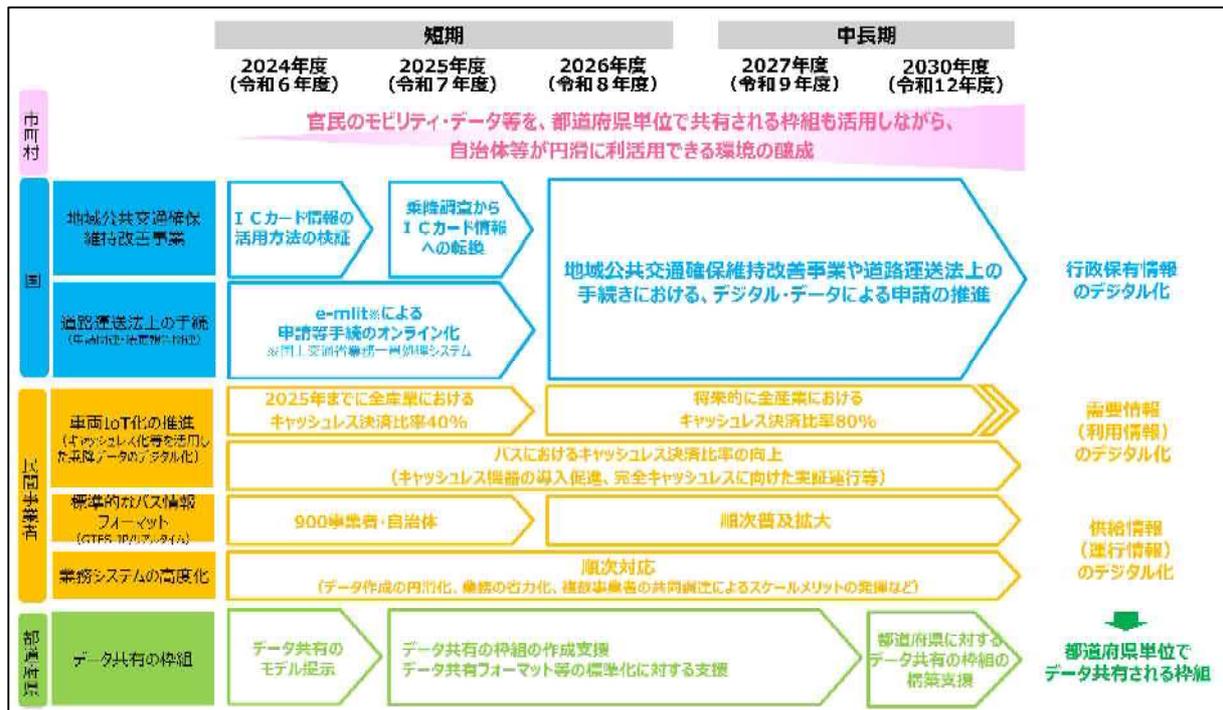
庁内関係部署の連携イメージ



8-2 モビリティ・データの活用

国では、「国・都道府県・民間事業者によるデジタル化を一体的に推進することにより、2030年をめぐりに交通分野において、情報技術の特徴(自動化・省力化)を最大限に活用した有機的なデジタル連携体制の構築を目指すべき」としています。

本市においても、整備されたICカード情報の活用など、進捗に応じて積極的にデータを活用していきます。



資料:「地域公共交通計画」の実質化に向けた検討会 中間とりまとめ(R6.4)

次期計画の目標・施策・KPI (案)

★：重点目標 ☆重点事業

目標	想定する施策 (プロセスの目標)	関連 KPI	想定するKPI (アウトカム)	資料 2
基本方針1 創る ～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～				
目標① 路線網の維持・改善 ★				
	(1) 路線の維持・改善	☆	①観光路線をのぞく路線バスの利用者 114万人 (R6維持)	
	1) 市と交通事業者が連携し、適正な役割分担のもとで、地域ニーズにあった路線再編を実施する	①～⑩	②おかげバスの利用者 7万人	
	2) 路線バスの運行維持・改善	①	③おかげバス環状線の利用者 7万人	
	3) おかげバス・おかげバスデマンドの運行維持・改善	②～④	④おかげバスデマンドの利用者 3,000人	
	4) 市内環状線バスの運行維持・改善	①	⑤沼木バスの利用者 2,700人	
	(2) ダイヤ調整		⑥沼木バスデマンドの利用者 650人	
	1) ICカード利用履歴を活用したダイヤ調整による利便性向上を図る	①～④ ⑧～⑩	⑦地域運営乗合タクシーの利用者数 200人	
	2) おかげバス、路線バス、鉄道が連携した乗り継ぎ利便性を確保する		⑧年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合 R6比 5%減	
	(3) 交通空白の解消	☆	⑨公的資金投入額 (物価変動を踏まえて現状維持)	
	1) 交通事業者が連携し交通空白地帯の解消に向けた取組を推進する		⑩収支率 (物価変動を踏まえて現状維持)	
	2) 市、交通事業者、地域が連携し、地域交通の導入・維持を図る	⑤⑥		
	(4) 周辺市町との連携強化			
	1) 周辺市域と連携し、より効果的なバス路線を構築する			
目標② 周辺環境の改善				
	(1) わかりやすい案内環境の整備		①公共交通利用満足度 40%	
	1) バスロケーションシステムを活用した案内サイネージの設置を推進する (時間の案内)	①	②新たに設置した上屋、ベンチ等の個数 10基	
	2) 路線バスとコミュニティバスのバス停名統一、鉄道駅や主要バス停までの案内表示を行う (場所の案内)	①		
	(2) バス待ち環境の改善			
	1) 主要バス停の乗り継ぎ案内表示、上屋・ベンチ等の整備を図る	①②		
目標③ 次世代公共交通の導入 ★				
	1) 「小型電気バス」、「ハイブリッド連節バス神都ライナー」の導入促進による、CO2の削減に努める	①②	①電気バス及びハイブリッド連節バスの台数維持 (電気バス・ハイブリッド連節バスの台数/全台数)	
	2) 自動運転バスの導入に向けた実証実験を実施し、本格導入を目指す	☆	②CO2削減量 (算出方法は加藤先生と要相談)	
	3) 自転車・シェアモビリティと公共交通との連携やグリーンローモビリティなど、新たな交通システム導入について研究を行う			
基本方針2 活かす ～公共交通を使っておでかけできる、楽しい伊勢を実現する～				
目標① 利用するきっかけの創出 ★				
	(1) 公共交通への興味喚起	☆	①ポスターコンクール応募者 児童数の7%	
	1) バスポスターコンクール、乗り方教室、伊勢まつりでの利用促進など「楽しさ」を届ける啓発を実施する	①～④	②利用啓発イベント参加者数 1,100人	
	2) 三重応援ポケモン「ミジュマル」の電気バスを活用した啓発を実施する	④	③おでかけ乗車券の利用率 40%	
	3) さわやかウォーキングなどのイベント、啓発を通じ、鉄道利用者の増加を促進する		④子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度 50% (市民アンケートで10代～30代・70代以上の満足度)	
	(2) 公共交通利用によるお出かけの促進			
	1) 学生・子育て世代・高齢者の公共交通に対する利用ニーズを調査し、ニーズに合った利用促進を実施する	④		
	2) 地域イベントや施設との連携による公共交通の利用を促進する	①～④		
	(3) 利用促進に向けた料金負担軽減策の推進			
	1) セーフティバスやおでかけ乗車券など多様な交通手段で利用出来る料金負担軽減策を推進する	③		

目標	想定する施策（プロセスの目標）	関連 KPI	想定するKPI（アウトカム）	資料2
目標② わかりやすい情報発信による利用促進				
(1) 積極的な広報の実施			①伊勢市交通政策課HPのPV数 R5比 10%増	
1)	地域のイベントと連携した公共交通利用促進の広報を実施する	①～③	②LINEチャットボットの起動回数 R5比 10%増	
2)	HPやSNS、チラシ配布など多様な媒体を活用した広報を実施する	①～③	③SNSフォロワー数 1,000人	
3)	周辺市町と情報の共有、周知活動を行う			
(2) わかりやすい乗車案内				
1)	GTFS-リアルタイム、LINEアカウントによるチャットボットの公共交通案内、総合時刻表の配布など多様な手段を用いた乗車案内を実施する	①～③		
2)	鉄道・バスによるアクセス方法や料金等の周知を実施する	①～③		
3)	「三重県内の公共交通見える化プロジェクト」との連携を図る	①～③		
基本方針3 めぐる ～公共交通を利用する観光交通が充実した伊勢を実現する～				
目標① 観光客の公共交通利用を増やす		★		
1)	遷宮に向けた交通環境の整備を行う	☆ ②④	①観光統計 近鉄、JR主要駅の乗客数 4,900千人	
2)	シェアサイクル・レンタサイクルなど多様な交通手段の組み合わせによる二次交通の充実を図る	☆ ③	(伊勢市駅/宇治山田駅/五十鈴川駅/二見浦駅)	
3)	伊勢志摩観光型MaaSの取り組み継続による周遊観光の促進	①～⑤	②外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線の利用者数 R6比 30%増	
4)	店舗、宿泊施設と公共交通が連携した新たなサービスを展開する		③サイクルトレイン、レンタサイクルの利用者数 R5比 15%増（サイクルトレイン）、35%増（レンタサイクル）	
5)	ゴールデンウィーク・初参り時に、公共交通の積極的な利用を呼びかける	④	④内宮参拝者の公共交通利用率 35%	
目標② 観光満足度を上げ、何度でも訪れたいと思える公共交通観光の提案			⑤「公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖」HPアクセス数 30,500PV（全13エリア公開）	
1)	マイカーによる「ショートカット観光」から、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進する	①～⑤		
2)	観光施設へのアクセスを円滑化するため、モデルルートの提案などSNS等による情報提供を行う	①～⑤		
目標③ 外国人観光客の公共交通使いやすさの向上				
1)	多言語表示、多言語案内コンテンツの作成等、外国人観光客の公共交通使いやすさの向上を図る	①	①新たに整備する外国人向けの公共交通案内表示、動画、ウェブサイト等のコンテンツ数 10コンテンツ	
基本方針4 育てる ～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～				
目標① 担い手確保		★		
1)	バス・タクシーのドライバー確保に向けた取組を推進する	☆ ①②	①乗合バスの運転手不足による減便を0にする	
2)	運行管理や点検等を含めた車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎを行う		②タクシー登録台数（+ライドシェア車両）〇台（R6比 〇%増）or ライドシェアの本格実施 (加藤先生に要相談)	
目標② 収入源の確保				
1)	バス停のネーミングライツや車内放送など、公共交通を企業や店舗のPRなど活性化のツールとして活用する	①	①広告協賛企業数 7社	
目標③ 公共交通を考える				
(1) 公共交通会議を軸とした施策の推進			①伊勢地域公共交通会議の開催	
1)	定期開催に加えて、地域課題に合わせた臨機な開催により、新たな課題解決の場として公共交通会議を活用し、地域と共にある会議を目指す	①	【望ましい方向：4回/年以上の定期開催+地域課題に応じた臨機な開催】	
2)	高齢化の影響が懸念される地区の公共交通のあり方、将来の交通体系を検討する新たなスキームについて検討する	②	②地域との懇談会等の回数 3回以上/年	
3)	公共交通会議での検討状況をHPなどを通じて定期的に発信する	①		
(2) 地域自らが公共交通を考える機会の創出				
1)	地域との意見交換の場を積極的に持ち、地域課題の把握と地域自らが中心となって地域交通の必要性や運行改善などを考える機会を設ける	②		
2)	おかげバス二見線、おかげバス鹿海・朝熊線は地域との対話を重ね、地域を巻き込んだ利用促進策を検討する	②		

KPIの考え方

目標年次：R12年度

【利用者数に関する基本的な考え方】

- 現計画で未達成の目標値については、人口減少を考慮しながらR12までに、コロナ前（R1）の水準に戻す。



全体の人口減少（12%）を
バス利用者数に反映させると・・・

	観光路線を 除く路線バス	おかげバス (環状線除く)	おかげバス デマンド	沼木バス
R1	1,491,500	78,628	3,633	3,113
R12	1,311,740	69,151	3,195	2,738

減少率	12%	12%	12%	12%
-----	-----	-----	-----	-----

ただし、「観光路線を除く路線バスの利用者数」は、近年横ばい傾向であるため（左図）、人口減少も考慮し、R6の実績値（1,138千人）の維持を目標とする。



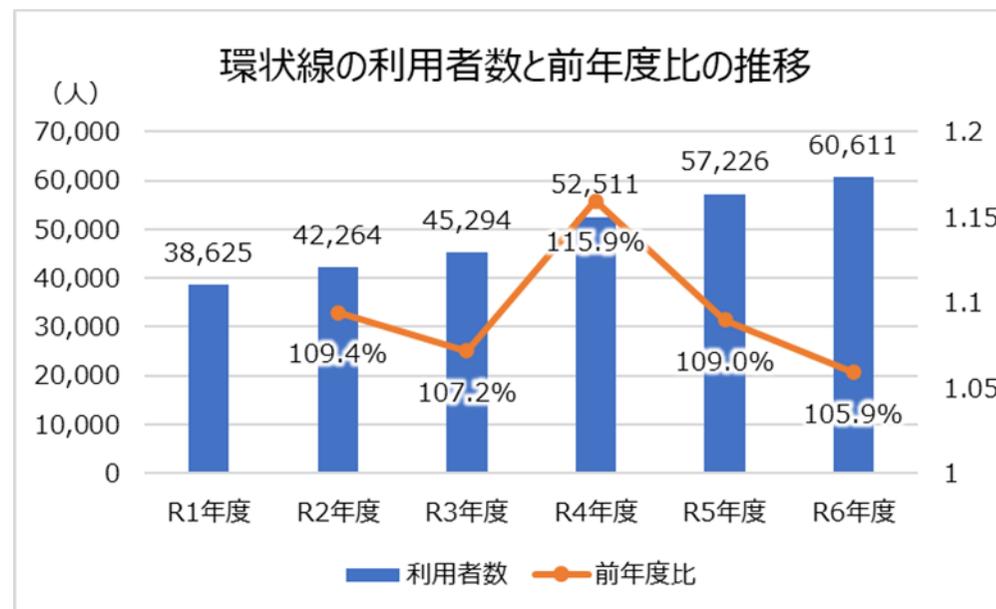
- ①観光路線をのぞく路線バスの利用者 114万人
- ②おかげバスの利用者 7万人
- ④おかげバスデマンドの利用者 3,000人
- ⑤沼木バスの利用者 2,700人

【おかげバス環状線の目標値の考え方】

- 毎年利用者数は伸びているが、コロナ後伸び率が縮小しているため、現行の連動化計画を踏まえて毎年+3%を目標とする。

▼おかげバス環状線の利用者数の伸び率の推移

利用者	比較				
	R1比較	R2比較	R3比較	R4比較	R5比較
38,625	-	-	-	-	-
42,264	109.4%	-	-	-	-
45,294	117.3%	107.2%	-	-	-
52,511	136.0%	124.2%	115.9%	-	-
57,226	148.2%	135.4%	126.3%	109.0%	-
60,611	156.9%	143.4%	133.8%	115.4%	105.9%

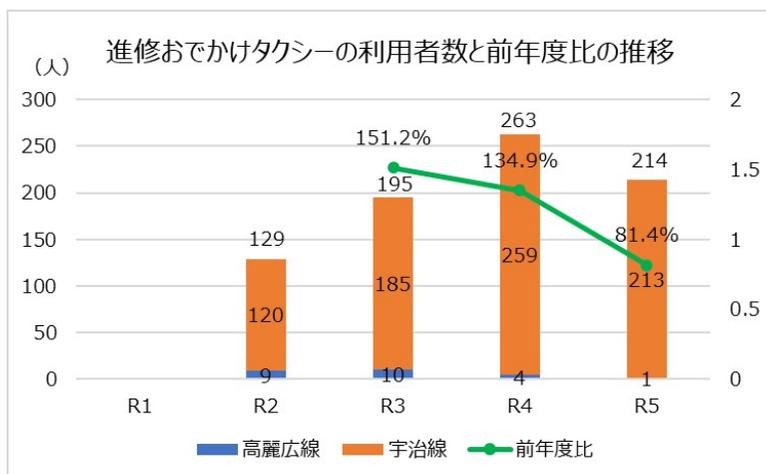
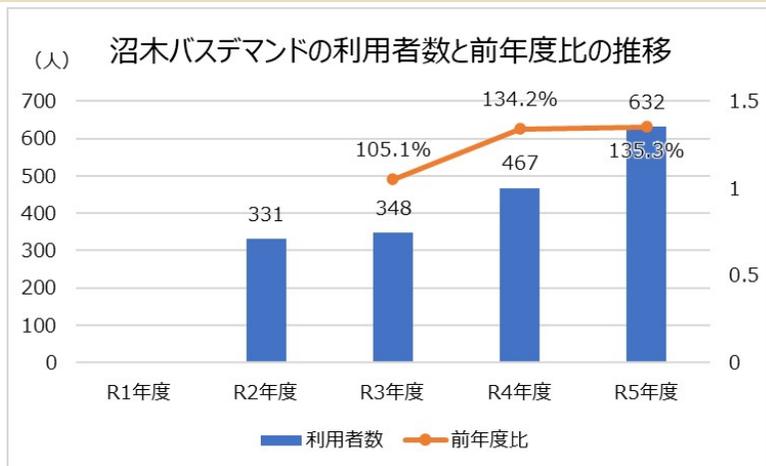


環状線年間利用者数						目標値					
R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
38,625	42,264	45,294	52,511	57,226	60,611	62,429	64,302	66,231	68,218	70,265	72,373
						3%	3%	3%	3%	3%	3%

③おかげバス環状線の利用者 7万人

【沼木バスデマンド・地域運営乗合タクシー（進修おでかけタクシー）の目標値の考え方】

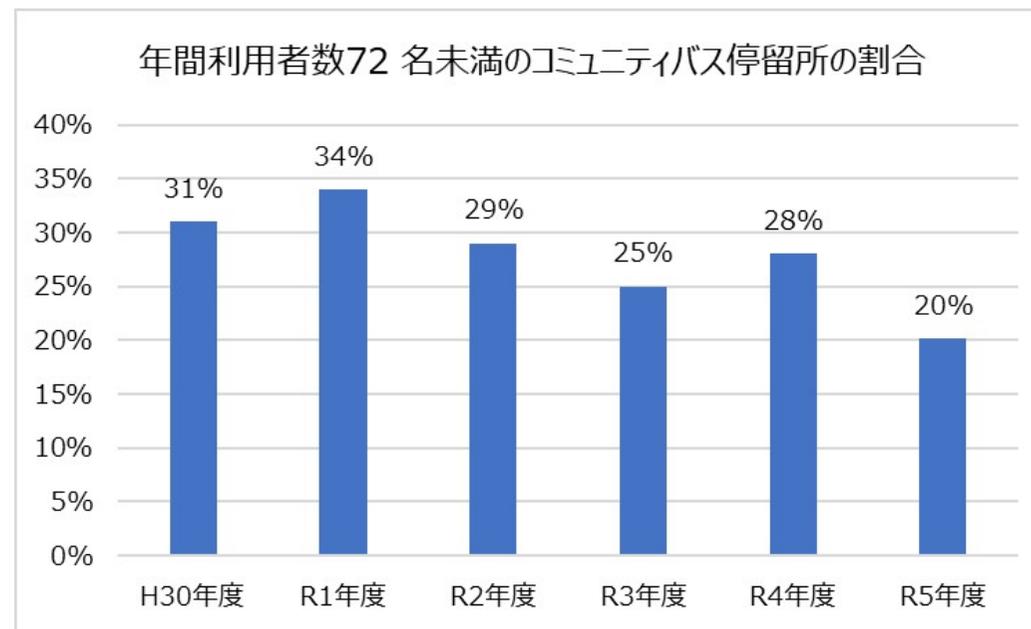
- 現状維持とする。



⑥沼木バスデマンドの利用者 650人
⑦地域運営乗合タクシーの利用者数 200人

【年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合の目標値の考え方】

- 過去5年で10%減少しているが、減少幅が年度によって異なるため、今後5年で20%を目標とする。

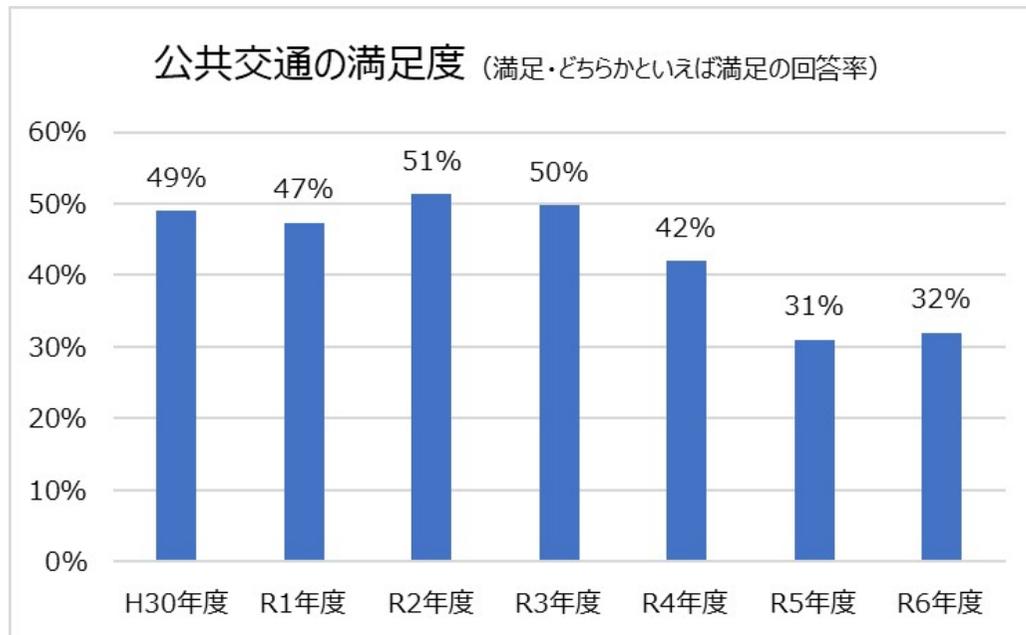


※R6 23%

⑧年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合 20%

【公共交通利用満足度の目標値の考え方】

- R6時点の満足度が32%、5年で+10%を目指す



①公共交通利用満足度 40%

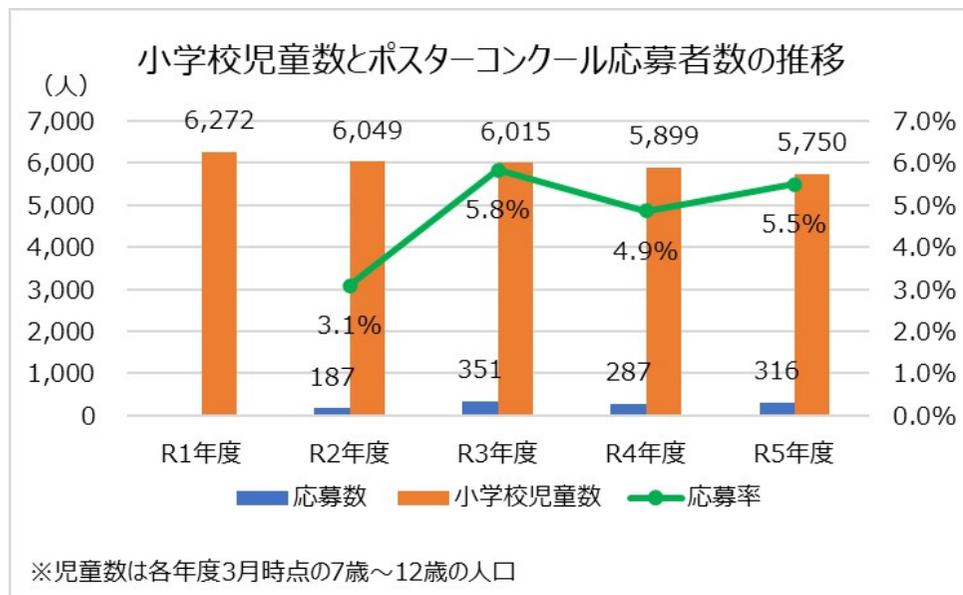
【新たに設置した上屋・ベンチ等の個数の目標値の考え方】

- R8年度から年間2基程度のベンチを設置し、5年間で10基を目指す。

②新たに設置した上屋、ベンチ等の個数 10基

【ポスターコンクール応募者の目標値の考え方】

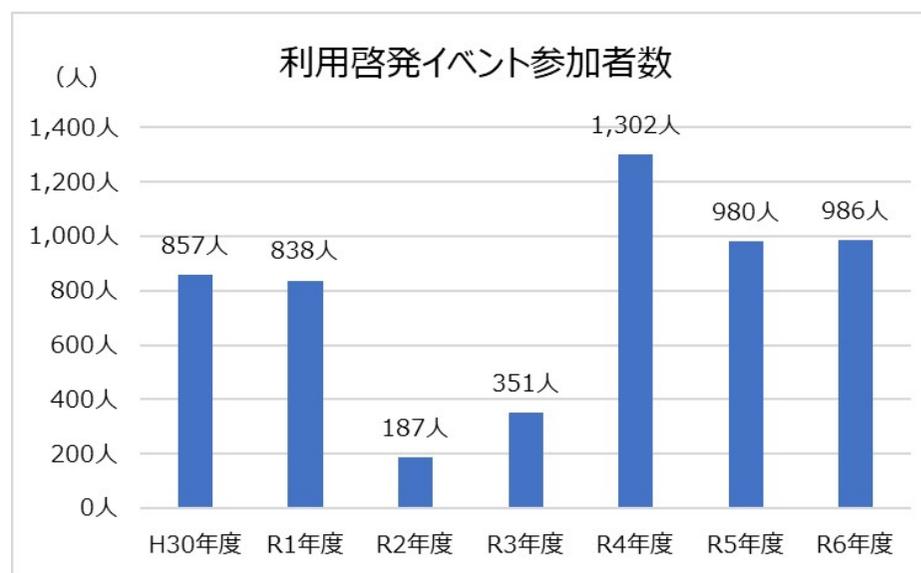
- R2～R5の応募率は3～5%。5年間で+2%を目指す



①ポスターコンクール応募者 児童数の7%

【利用啓発イベント参加者数の目標値の考え方】

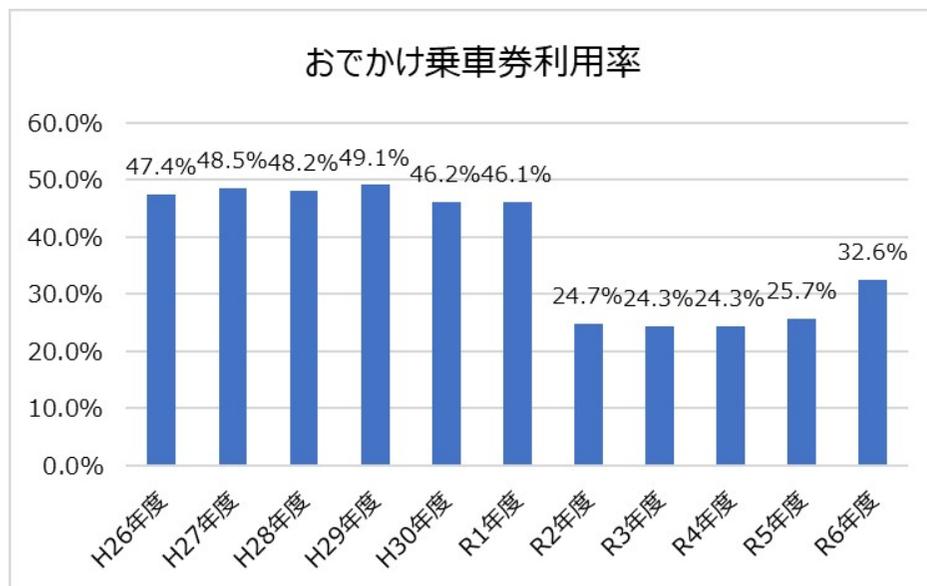
- R2～R4年度を除くと、過去5年間の参加者数は+130～150人程度。
- 今後5年間で+100人を目指す。



②利用啓発イベント参加者数 1,100人

【おでかけ乗車券利用率の目標値の考え方】

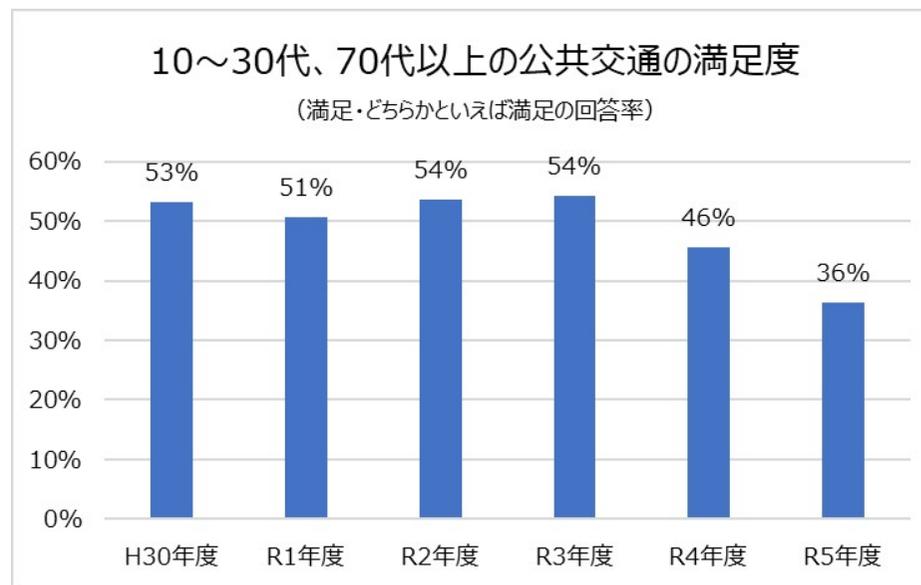
- コロナ前のR1までの利用率は46.1%～49.1%、コロナ後は24.3%～26.1%。
- コロナ後の減少が著しいため、+5%程度の30%を目標とする。



③おでかけ乗車券の利用率30%

【子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度】

- 10代～30代・70代以上の満足度を対象とする。
- 対象年代の合計で満足度50%を目指す。



④子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度50%

【伊勢市交通政策課HPのPV数の目標値の考え方】

- バスの乗り方動画の掲載など、掲載コンテンツを充実させ、HPのPV数増加を目指す。

【LINEチャットボットの起動回数の目標値の考え方】

- SNSを活用した周知などにより、利用者数を増加させる。

【SNSフォロワー数の目標値の考え方】

- イベントの告知や公共交通の情報発信などにより、フォロワーを獲得する。



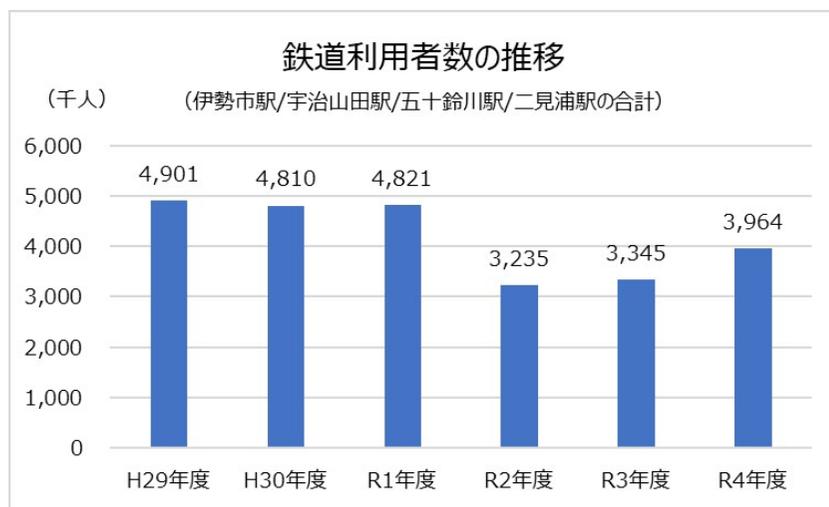
①伊勢市交通政策課HPのPV数 R5 (79,481PV) 比 10%増 87,400PV

②LINEチャットボットの起動回数 R6比 10%増 (集計依頼中)

③SNSフォロワー数 1,000人

【近鉄、JR主要駅の乗客数の目標値の考え方】

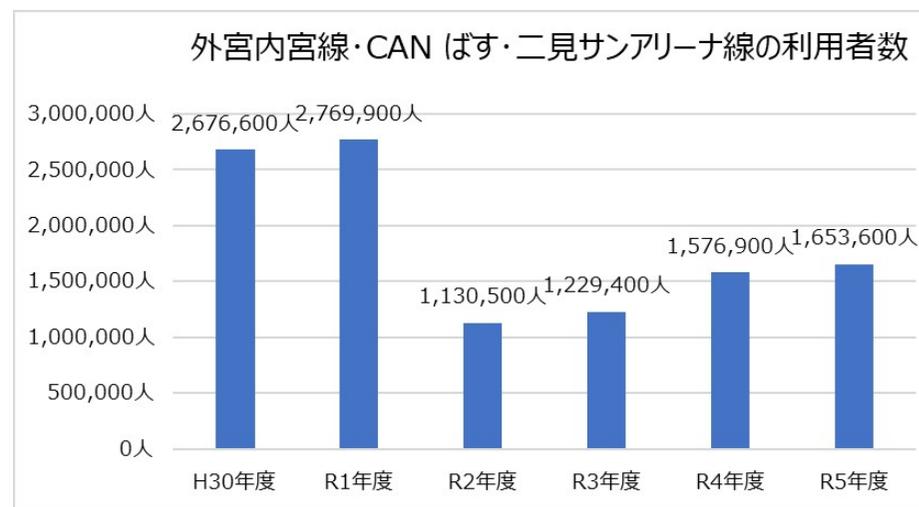
- 観光利用の多い伊勢市駅（JR・近鉄）、宇治山田駅、五十鈴川駅、二見浦駅を対象とする。
- R2～R3はコロナの影響で減少、その後回復途中であるため、今後5年でコロナ前のR1の水準に戻す。



①観光統計 近鉄、JR主要駅の乗客数 4,900千人

【外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線を除く路線バスの利用者数の目標値の考え方】

- コロナ前のR1の水準に戻すのであれば270万人が目標値となるが、運転士不足で増便対応ができないなか、+100万人は厳しいため、R6実績の+30%を目標とする。



②外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線の利用者数 R6 (1,783,300人) 比 30%増 2,318,000人

【サイクルトレイン、レンタサイクルの利用者数の目標値の考え方】

- 「伊勢志摩地域自転車等活用推進計画（R6.2）」の目標値を準用する。
- 自転車等活用推進計画の目標値が、毎年一定で増加し続けると仮定した場合の増加数は、サイクルトレイン3.14人/月、レンタサイクル等貸出数316.7台/年。
- R10時点の目標値に各年の増加数を加えて、R12の利用者数を算定し、R5年からの増加率を目標とする。

▼伊勢志摩地域自転車等活用推進計画（R6.2）の目標値

	現状値 (R4・R5)	目標値 (R10)	
サイクルトレイン月平均利用者数	157人/月	173人/月	5年間で10%増→各年3.14人/月増
レンタサイクル等貸出数	6,200台/年	8,100台/年	6年間で30.6%増→各年316.7台/年増

▼伊勢志摩地域自転車等活用推進計画（R6.2）の目標値を準用した目標値の検討

自転車等活用推進計画目標値

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
サイクルトレイン月平均利用者数		157人/月	160人/月	163人/月	166人/月	170人/月	173人/月	176人/月	179人/月
レンタサイクル等貸出数	6,200台/年	6,517台/年	6,833台/年	7,150台/年	7,467台/年	7,783台/年	8,100台/年	8,417台/年	8,733台/年

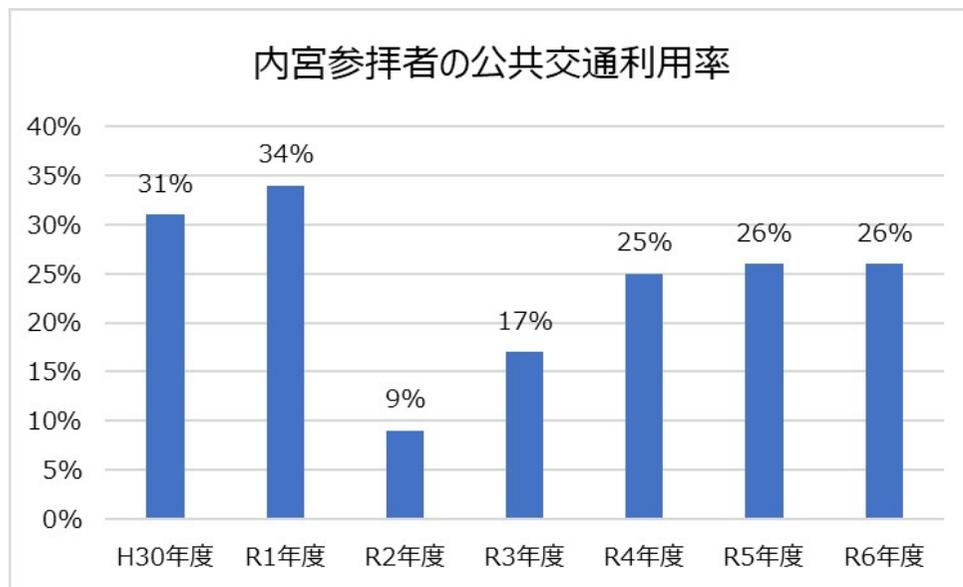
R5年→R12年増加率

サイクルトレイン月平均利用者数	14.0%
レンタサイクル等貸出数	34.0%

③サイクルトレイン、レンタサイクルの利用者数 R5比 15%増（サイクルトレイン）、35%増（レンタサイクル）

【内宮参拝者の公共交通利用率の目標値の考え方】

- 現計画での目標未達のため、コロナ前のR1の水準（34%）に戻す。



④内宮参拝者の公共交通利用率 35%

【「公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖」HPアクセス数の目標値の考え方】

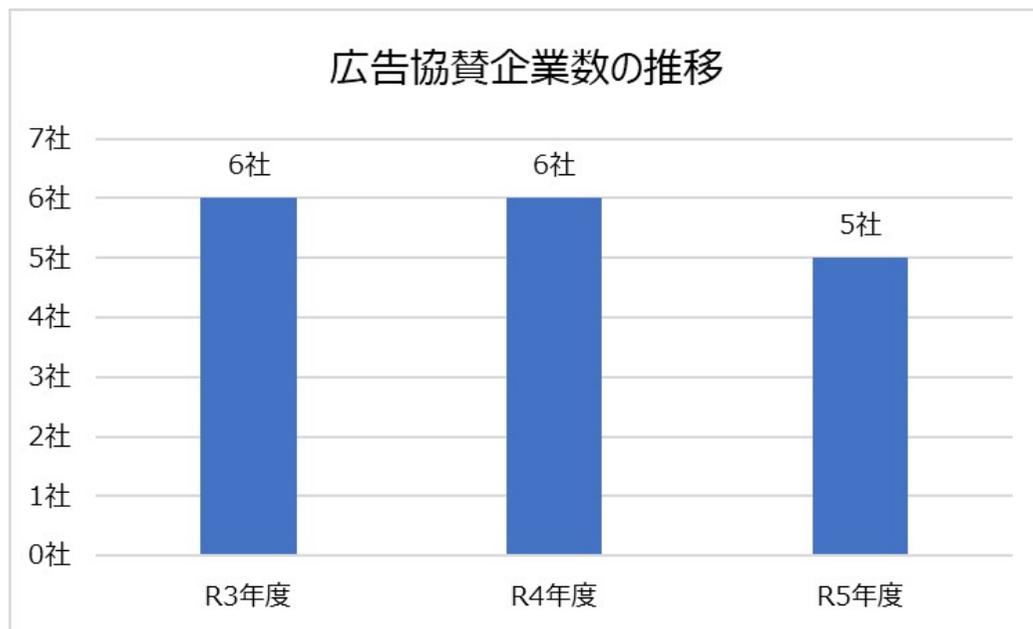
- 2/28～5/15 6,104PV（月2000PV程度）
- $2,000PV \times 12\text{か月} = 24,000PV \times 5\% \text{増} = 25200PV$ （R8年度目標）
- 以降、R12まで毎年5%増（R12：30,500PV）
- R12までに全13エリアを公開する。

	R8	R9	R10	R11	R12
PV数数	25,200	26,460	27,783	29,172	30,631
増加率	5%	5%	5%	5%	5%

⑤「公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖」HPアクセス数 30,500PV（全13エリア公開）

【広告協賛企業数の考え方】

- R5年時点で5社。
- 5年で2社増を目標とする。



①広告協賛企業数 7社